

第十六回 貴族院議事速記録第五號

明治三十五年一月二十五日(土曜日)

午前十時十三分開議

議事日程 第五號 明治三十五年一月二十五日

午前十時開議

第一 侯爵中山孝賢君、侯爵德川義禮君、侯爵尙典君、子爵小笠原壽長君、男爵津田眞道君、海江田平治君請暇ノ件

第二 刑法改正案(政府提出) 第一讀會

第三 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第四 農工銀行法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第五 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第六 耕地整理法中改正法律案(政府提出) 第一讀會

第七 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第八 地租條例中改正法律案(衆議院提出) 第一讀會

第九 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

第十 蟲害地地租特別處分法案(衆議院提出) 第一讀會

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

(小原書記官朗讀)

各特別委員會ニ於テ當選シタル委員長副委員長ノ氏名左ノ如シ

地方學事通則中改正法律案特別委員會

委員長 伯爵清棲 家教君 副委員長 辻 新次君

移民保護法中改正法律案特別委員會

委員長 子爵岡部 長職君 副委員長 宮本 小一君

北海道土功組合法案特別委員會

委員長 子爵鍋島 直彬君 副委員長 男爵北垣 國道君

去ル十八日豫算委員會ニ於テ各分科ノ擔當委員ヲ左ノ如ク變更追加セリ

子爵三島 彌太郎君

第一分科擔當兼務委員ヲ削除ス

第一分科擔當兼務委員ニ追加ス

男爵小澤 武雄君

第二分科擔當兼務委員ニ追加ス

男爵紀 俊 秀君

第五分科擔當兼務委員ニ追加ス

子爵三島 彌太郎君  
男爵玉松 眞 幸君

同日薨去セラル依テ二十日左ノ弔辭ヲ贈レリ  
從二位勳一等男爵永山 盛輝君

貴族院ハ議員從二位勳一等男爵永山盛輝君ノ長逝ヲ追悼シ恭シク弔辭ヲ呈ス

去ル二十一日左ノ衆議院提出案ヲ受領セリ

地租條例中改正法律案

蟲害地地租特別處分法案

去ル二十二日左ノ政府提出案ヲ受領セリ

刑法改正案

農工銀行法中改正法律案

耕地整理法中改正法律案

○議長(公爵近衛篤磨君) 是ヨリ本日ノ日程ニ移リマス、侯爵中山孝賢君會期中、侯爵德川義禮君二週間、侯爵尙典君二週間、子爵小笠原壽長君五週間、男爵津田眞道君五週間、海江田平治君十五日間、孰モ病氣ニ附キ請暇ノ願ガ出テ居リマス、御異議ガナクバ許可致シマス

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 刑法改正案、政府提出、第一讀會

(小原書記官朗讀)

刑法改正案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十五年一月二十二日

內閣總理大臣子爵桂 太郎  
海軍大臣 山本權兵衛

陸軍大臣男爵兒玉源太郎  
遞信大臣子爵芳川顯正  
內務大臣男爵內海忠勝  
文部大臣<sup>理學博士</sup>菊池大麓  
農商務大臣 平田東助  
司法大臣 清浦奎吾  
大藏大臣 曾禰荒助  
外務大臣 小村壽太郎

## 刑法別冊ノ通之ヲ定ム

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

此法律施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
明治十三年第三十六號布告刑法ハ此法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

## (別冊)

## 刑法

## 第一編 總則

## 第一章 法例

## 第二章 刑

## 第三章 期間計算

## 第四章 刑ノ執行ノ猶豫及ヒ免除

## 第五章 時效

## 第六章 大赦、特赦、減刑及ヒ復權

## 第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

## 第八章 未遂罪

## 第九章 併合罪

## 第十章 再犯

## 第十一章 共犯

## 第十二章 酌量減輕

## 第十三章 加減例

## 第二編 罪

## 第一章 皇室ニ對スル罪

## 第二章 內亂ニ關スル罪

## 第三章 外患ニ關スル罪

## 第四章 國交ニ關スル罪

## 第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

## 第六章 被拘禁者逃走ノ罪

## 第七章 罪人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

## 第八章 多衆聚合ノ罪

## 第九章 放火及ヒ失火ノ罪

## 第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

## 第十一章 往來通信ヲ妨害スル罪

## 第十二章 住居ヲ侵スル罪

## 第十三章 祕密ヲ侵スル罪

## 第十四章 阿片煙ニ關スル罪

## 第十五章 飲料水ニ關スル罪

## 第十六章 通貨偽造ノ罪

## 第十七章 文書偽造ノ罪

## 第十八章 有價證券偽造ノ罪

## 第十九章 印章偽造ノ罪

## 第二十章 偽證ノ罪

## 第二十一章 誣告ノ罪

## 第二十二章 猥褻及ヒ重婚ノ罪

## 第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

## 第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

## 第二十五章 瀆職ノ罪

## 第二十六章 殺人ノ罪

## 第二十七章 傷害ノ罪

## 第二十八章 過失傷害ノ罪

## 第二十九章 墮胎ノ罪

## 第三十章 老者、幼者及ヒ病者ノ保護ヲ缺ク罪

## 第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

## 第三十二章 脅迫ノ罪

## 第三十三章 人ヲ拐取スル罪

## 第三十四章 名譽ニ對スル罪

## 第三十五章 賊盜ノ罪

第三十六章 占有物横領ノ罪

第三十七章 贓物ニ關スル罪

第三十八章 財物毀棄ノ罪

刑法

第一編 總則

第一章 法例

第一條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ在ル帝國船舶内ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ付キ亦同シ

第二條 本法ハ何人ヲ問ハス帝國外ニ於テ第八十七條乃至第九十條、第九十二條乃至第九十四條、第九十七條乃至第一百零四條、第一百七十二條第一項、第一百七十三條第一項、第一百七十五條、第一百七十九條乃至第一百八十二條、第一百八十八條、第一百八十九條第一項、第三項及ヒ第一百九十一條乃至第一百九十三條ノ罪ヲ犯シタル者ニ之ヲ適用ス

第三條 本法ハ帝國外ニ於テ第二百二十八條、第二百二十九條第一項、第三百十二條、第三百三十四條、第三百三十八條、第四百零四條、第四百八十三條、第四百八十六條、第四百九十四條、第二百五五條乃至第二百七條、第二百九條、第二百三十四條乃至第二百三十六條、第二百四十一條、第二百四十二條、第二百五十五條、第二百五十六條、第二百五十八條、第二百五十九條、第二百六十二條乃至第二百六十四條、第二百六十七條、第二百七十二條、第二百七十三條、第二百七十五條乃至第二百八十條、第二百八十六條、第二百八十九條及ヒ第二百九十二條第二項ノ罪ヲ犯シタル帝國臣民ニ之ヲ適用ス

帝國外ニ於テ帝國臣民ニ對シ前項ノ罪ヲ犯シタル外國人ニ付キ亦同シ

第四條 本法ハ帝國外ニ於テ第二百二十條、第二百二十四條、第二百二十六條第二項、第二百二十七條乃至第二百二十九條、第二百三十一條及ヒ第二百三十二條ノ罪ヲ犯シタル帝國ノ公務員ニ之ヲ適用ス

第五條 外國ニ於テ確定裁判ヲ受ケタル者ト雖モ同一行爲ニ付キ更ニ處罰スルコトヲ妨ケス但犯人既ニ外國ニ於テ言渡サレタル刑ノ全部又ハ一部ノ執行ヲ受ケタルトキハ刑ノ執行ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第六條 犯罪後ノ法律ニ因リ刑ノ變更アリタルトキハ其輕キモノヲ適用ス

第七條 本法ニ於テ公務員ト稱スルハ官吏、公吏、法令ニ依リ公務ニ從事スル議員、委員其他ノ職員ヲ謂フ

公務所ト稱スルハ公務員ノ職務ヲ行フ所ヲ謂フ

第八條 本法ノ總則ハ他ノ法令ニ於テ刑ヲ定メタルモノニ亦之ヲ適用ス但其法令ニ特別ノ規定アルトキハ此限ニ在ラス

第二章 刑

第九條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留及ヒ科料ヲ主刑トス

公權剝奪、監視及ヒ沒收ヲ附加刑トス

第十條 主刑ノ輕重ハ前條記載ノ順序ニ依ル但無期禁錮ト有期懲役トハ禁錮ヲ以テ重シトシ有期禁錮ノ長期有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス

同種ノ刑ハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ以テ重シトシ長期又ハ多額ノ同シキモノハ其短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ以テ重シトス

二個以上ノ死刑又ハ長期若クハ多額及ヒ短期若クハ寡額ノ同シキ同種ノ刑ハ犯情ニ依リ其輕重ヲ定ム

第十一條 死刑ハ監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス

死刑ノ言渡ヲ受ケタル者ハ其執行ニ至ルマテ之ヲ監獄ニ拘留ス

第十二條 懲役ハ無期及ヒ有期トシ有期懲役ハ一年以上十五年以下トス

懲役ハ懲役場ニ拘留シ定役ニ服ス

第十三條 禁錮ハ無期及ヒ有期トシ有期禁錮ハ一年以上十五年以下トス

禁錮ハ禁錮場ニ拘留ス

第十四條 懲役又ハ禁錮ヲ減輕スル場合ニ於テハ一月以下ニ降スコトヲ得

第十五條 罰金ハ二十圓以上トス但之ヲ減輕スル場合ニ於テハ二十圓以下ニ降スコトヲ得

第十六條 拘留ハ一日以上一月未満トシ拘留場ニ拘留ス

第十七條 科料ハ十錢以上二十圓未満トス

第十八條 三月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ一圓以上三百圓以下ノ贖金ヲ納メシメ其執行ニ充ツルコトヲ得

第十九條 罰金ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一年以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ完納スルコト能ハサル者ハ一日以上一月以下ノ期間之ヲ勞役場ニ留置ス

科料ヲ併科シタル場合ト雖モ留置ノ期間ハ二月ヲ超ユルコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ爲ストキハ其言渡ト共ニ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサル場合ニ於ケル留置ノ期間ヲ定メ之ヲ言渡ス可シ

罰金ニ付テハ裁判確定後一月内科料ニ付テハ裁判確定後十日内ハ本人ノ承諾アルニ非サレハ留置ノ執行ヲ爲スコトヲ得ス

罰金又ハ科料ノ言渡ヲ受ケタル者其幾分ヲ納ムルトキハ罰金又ハ科料ノ全額ト留置日數トノ割合ニ從ヒ其金額ニ相當スル日數ヲ控除シテ之ヲ留置ス

留置期間内罰金又ハ科料ヲ納ムルトキハ前項ノ割合ヲ以テ殘日數ニ充ツ留置一日ノ割合ニ滿タサル金額ハ之ヲ納ムルコトヲ得ス

## 第二十條 公權剝奪ハ左ノ效果ヲ生ス

一 法令ニ定メタル選舉ニ付キ選舉權及ヒ被選舉權ノ喪失

二 公務員タル資格ノ喪失

三 位記、勳章、年金、恩給及ヒ退隱料ヲ有スル資格ノ喪失

四 外國ノ勳章ヲ佩用スルコトノ禁止

五 兵籍ニ入ル資格ノ喪失

## 第二十一條 公權剝奪ハ無期及ヒ有期トシ有期公權剝奪ハ一年以上十五年以下トス

死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ當然無期トス

十年以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ無期又ハ有期ト

シ十年未滿ノ懲役又ハ禁錮ニ附加ス可キ公權剝奪ハ十年以下トス

有期ノ懲役又ハ禁錮ニ有期公權剝奪ヲ附加セラレタル者ハ裁判確定ノ日

ヨリ其懲役又ハ禁錮ノ滿限若クハ其執行ノ免除ニ至ルマテ當然公權ヲ剝奪セラレタルモノトス

## 第二十二條 監視ハ左ノ效果ヲ生ス

一 犯罪ノ地及ヒ被害者所在地ノ警察官廳ハ被監視人ニ對シ其管轄地

ノ全部又ハ一部ニ住居シ又ハ立入ルヲ禁スルコトヲ得

二 必要ナル場合ニ於テハ警察官ハ何時ニテモ被監視人ノ住居ニ就キ搜索及ヒ差押ヲ爲スコトヲ得

## 第二十三條 監視ノ期間ハ六月以上二年以下トス

第二十四條 有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處スル場合ニ於テ監視ヲ附加スルコト

ヲ得ヘキ罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者特赦又ハ時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ有期ノ懲役

若クハ禁錮ニ減輕セラレタルトキハ當然二年間監視ニ付セラレタルモノトス

併合罪ニ付キ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ニ處セラレタル者特赦又ハ

時効ニ因リ其執行ノ免除ヲ得又ハ減刑ニ因リ有期ノ懲役若クハ禁錮ニ減

輕セラレタル場合ニ於テ其併合罪中監視ヲ附加スルコトヲ得ヘキ罪アル

トキ亦同シ

## 第二十五條 法令ニ於テ所有ヲ禁シタル物ハ之ヲ沒收ス

左ニ記載シタル物ハ之ヲ沒收スルコトヲ得

一 犯罪行為ニ供シ又ハ供セントシタル物

二 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物

沒收ハ其物犯人以外ノ者ニ屬セサルトキニ限ル

第二十六條 拘留又ハ科料ノミニ該ル罪ニ付テハ特別ノ規定アルニ非サレ

ハ沒收ヲ科スルコトヲ得ス但前條第一項ニ記載シタル物ノ沒收ハ此限ニ在ラス

## 第三章 期間計算

第二十七條 期間ヲ計算スルニ一日ト稱スルハ二十四時ヲ以テシ一月ト稱スルハ三十日ヲ以テシ一年ト稱スルハ曆ニ從フ

第二十八條 刑期ハ裁判確定ノ日ヨリ起算ス

拘禁セラレサル日數ハ裁判確定後ト雖モ懲役、禁錮又ハ拘留ノ刑期ニ算入セス

有期ノ懲役又ハ禁錮ニ附加セラレタル有期公權剝奪及ヒ監視ノ期間ハ其

懲役又ハ禁錮ノ滿限若クハ其執行免除ノ翌日ヨリ起算ス

死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ノ執行免除ヲ得タル者ノ監視ノ期間ハ其

免除ノ翌日ヨリ起算シ減刑ニ因リ死刑又ハ無期ノ懲役若クハ禁錮ヲ有期

ノ懲役又ハ禁錮ニ減輕セラレタル者ノ監視ノ期間ニ付テハ前項ノ例ニ依

ル

第二十九條 受刑ノ初日ハ時間ヲ論セス全一日トシテ之ヲ計算ス時効期間

ノ初日亦同シ

放免ハ刑期終了ノ翌日ニ於テ之ヲ行フ

第三十條 未決勾留ノ日數ハ左ノ區別ニ從ヒ本刑ニ算入ス但本刑ノ一日

又ハ一圓ニ當ラサル勾留日數ハ之ヲ除棄ス

一 懲役一日ニ付キ勾留七日

二 禁錮、拘留一日ニ付キ勾留四日

三 罰金料一圓ニ付キ勾留三日但一圓以下ト雖モ亦同シ

第四章 刑ノ執行ノ猶豫及ヒ免除

第三十一條 左ニ記載シタル者一年以下ノ禁錮又ハ六月以下ノ懲役ノ言渡ヲ受ケタルトキハ情狀ニ因リ裁判確定ノ日ヨリ二年以上五年以下ノ期間内其執行ヲ猶豫スルコトヲ得

一 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

二 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ十年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者

第三十二條 公權剝奪又ハ監視ヲ附加セラレタル者ニハ前條ノ規定ヲ適用セス

第三十三條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ刑ノ執行ヲ猶豫ノ言渡ヲ取消ス可シ

一 猶豫ノ期間内更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 第三十一條第二號ニ記載シタル者ヲ除ク外猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

第三十四條 刑ノ執行ヲ猶豫ノ言渡ヲ取消サルルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ刑ノ執行ヲ免除ス

第三十五條 懲役又ハ禁錮ニ處セラレタル者改悛ノ狀アルトキハ有期刑ニ付テハ其刑期三分ノ一無期刑ニ付テハ十年ヲ經過シタル後行政處分ヲ以テ假ニ出獄ヲ許スコトヲ得

第三十六條 左ニ記載シタル場合ニ於テハ假出獄ノ處分ヲ取消スコトヲ得

一 假出獄中更ニ罪ヲ犯シ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二 假出獄前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 假出獄前他ノ罪ニ付キ罰金以上ノ刑ニ處セラレタル者ニシテ其刑ノ執行ヲ爲ス可キトキ

四 假出獄取締規則ニ違背シタルトキ

假出獄ノ處分ヲ取消シタルトキハ出獄中ノ日數ハ刑期ニ算入セス

第三十七條 拘留ニ處セラレタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除スルコトヲ得

罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハサルニ因リ留置セラレタル者亦同シ

第五章 時効

第三十八條 死刑、懲役、禁錮、罰金、拘留、科料及ヒ沒收ノ言渡ヲ受ケタル者ハ時効ニ因リ執行ノ免除ヲ得

第三十九條 時効ハ刑ノ言渡確定シタル後左ノ期間内其執行ヲ受ケサルニ因リ完成ス

一 死刑ハ三十年

二 無期ノ懲役又ハ禁錮ハ二十年

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ十年以上ハ十五年、三年以上ハ十年、三年未満ハ五年

四 罰金ハ三年

五 拘留、科料及ヒ沒收ハ一年

第四十條 時効ハ法令ニ依リ刑ノ執行ヲ猶豫シ又ハ之ヲ停止シタル期間内ハ進行セス

第四十一條 時効ハ刑ノ執行ニ付キ犯人ヲ逮捕シタルニ因リ之ヲ中斷ス罰金、科料及ヒ沒收ノ時効ハ執行行為ヲ爲シタルニ因リ之ヲ中斷ス

第六章 大赦、特赦、減刑及ヒ復權

第四十二條 大赦ハ裁判言渡ノ效力ヲ全減ス

第四十三條 特赦ハ刑ノ執行ヲ免除シ減刑ハ刑ノ執行ヲ減輕ス

第四十四條 復權ハ將來ノ公權ヲ復シ當然監視ヲ免除ス

第七章 犯罪ノ不成立及ヒ刑ノ減免

第四十五條 法令又ハ正當ノ業務ニ因リ爲シタル行為ハ之ヲ罰セス

第四十六條 急迫不正ノ侵害ニ對シ自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スル爲メ已ムコトヲ得サルニ出デタル行為ハ之ヲ罰セス

若シ必要ノ程度ヲ超エタルトキハ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第四十七條 自己又ハ他人ノ生命、身體、自由若クハ財產ニ對スル現在ノ危

難ヲ避クル爲メ已ムコトヲ得サルニ出デタル行為ハ其行為ヨリ生シタル

害其避ケントシタル害ノ程度ヲ超エサル場合ニ限り之ヲ罰セス但其程度ヲ超エタルトキト雖モ情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

前項ノ規定ハ業務上特別ノ義務アル者ニハ之ヲ適用セス

第四十八條 罪ヲ犯ス意ナキ行爲ハ之ヲ罰セス但法律ニ特別ノ規定アル場合ハ此限ニ在ラス

法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス但情狀ニ因リ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第四十九條 精神障礙ニ因ル行爲ハ之ヲ罰セス但情狀ニ因リ監置ノ處分ヲ命スルコトヲ得

精神耗弱者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕ス

第五十條 瘡腫者ノ行爲ハ之ヲ罰セス又ハ其刑ヲ減輕ス但之ヲ罰セサル場合ニ於テハ情狀ニ因リ十年以下ノ期間懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得

第五十一條 十四歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ之ヲ罰セス但滿八歳以上ノ者ノ行爲罰金以上ノ刑ニ處ス可キ罪ニ該ルトキハ情狀ニ因リ十年以下ノ期間懲治ノ處分ヲ命スルコトヲ得

第五十二條 十四歳以上二十歳ニ滿タサル者ノ行爲ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

第五十三條 監置又ハ懲治ノ處分ヲ受ケタル者ハ情狀ニ因リ何時ニテモ行政處分ヲ以テ其執行ヲ免除スルコトヲ得

第五十四條 罪ヲ犯シ未タ官ニ發覺セサル前自首シタル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得

告訴ヲ待テ論ス可キ罪ニ付キ告訴權ヲ有スル者ニ首服シタル者亦同シ

## 第八章 未遂罪

第五十五條 犯罪ノ實行ニ著手シ之ヲ遂ゲサル者ハ其刑ヲ減輕スルコトヲ得但自己ノ意思ニ因リ之ヲ止メタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除ス

第五十六條 未遂罪ヲ罰スル場合ハ各本條ニ於テ之ヲ定ム

## 第九章 併合罪

第五十七條 確定裁判ヲ經サル數罪ヲ併合罪トス若シ或罪ニ付キ確定裁判アリタルトキハ止タ其罪ト其裁判確定前ニ犯シタル罪トヲ併合罪トス

第五十八條 併合罪中其一罪ニ付キ死刑ニ處ス可キトキハ他ノ刑ヲ科セス但公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

其一罪ニ付キ無期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キトキ亦他ノ刑ヲ科セス但罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ハ此限ニ在ラス

第五十九條 併合罪中二個以上ノ有期ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ罪アルト

キハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノヲ以テ長期トス但各罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ヲ合算シタルモノニ超ユルコトヲ得ス

第六十條 罰金ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條第一項ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ罰金ハ各罪ニ付キ定メタル罰金ノ合算額以下ニ於テ處斷ス

第六十一條 併合罪中重キ罪ニ附加刑ナシト雖モ他ノ罪ニ附加刑アルトキハ之ヲ附加ス但第五十八條ノ適用ヲ妨ケス

二個以上ノ公權剝奪アルトキハ其期間ノ最モ長キモノヲ附加シ二個以上ノ監視アルトキハ單ニ其一個ヲ附加ス

二個以上ノ沒收ハ之ヲ併科ス

第六十二條 併合罪中既ニ裁判ヲ經タル罪ト未タ裁判ヲ經サル罪トアルトキハ更ニ裁判ヲ經サル罪ニ付キ處斷ス

第六十三條 併合罪ニ付キ二個以上ノ裁判アリタルトキハ其刑ヲ併セテ之ヲ執行ス但死刑ヲ執行ス可キトキハ公權剝奪及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ス可キトキハ罰金、科料、公權剝奪及ヒ沒收ヲ除ク外他ノ刑ヲ執行セス有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ執行ハ其最モ重キ罪ニ付キ定メタル刑ノ長期ニ其半數ヲ加ヘタルモノニ超ユルコトヲ得ス

公權剝奪又ハ監視ハ其期間ノ最モ長キモノヲ執行ス

第六十四條 併合罪ニ付キ處斷セラレタル者或罪ニ付キ大赦ヲ受ケタル場合ニ於テハ特大赦ヲ受ケサル罪ニ付キ刑ヲ定ム

第六十五條 拘留又ハ科料ト他ノ刑トハ之ヲ併科ス但第五十八條ノ場合ハ此限ニ在ラス

二個以上ノ拘留又ハ科料ハ之ヲ併科ス

第六十六條 一個ノ行爲ニシテ數個ノ罪名ニ觸レ又ハ犯罪ノ手段若クハ結果タル行爲ニシテ他ノ罪名ニ觸ルルトキハ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷ス

第六十七條 連續シタル數個ノ行爲ニシテ同一ノ罪名ニ觸ルルトキハ一罪トシテ之ヲ處斷ス

## 第十章 再犯

第六十八條 懲役ニ處セラレタル者其執行ヲ終リ又ハ執行ノ免除アリタル

日ヨリ十年内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルトキハ之ヲ再犯トス  
懲役ニ該ル罪ト同質ノ罪ニ因リ死刑ニ處セラレタル者其執行ノ免除アリ  
タル日ヨリ又ハ減刑ニ因リ懲役ニ減輕セラレ其執行ヲ終リ若クハ執行ノ  
免除アリタル日ヨリ前項ノ期間内ニ更ニ有期懲役ニ該ル罪ヲ犯シタルト  
キ亦同シ

併合罪ニ付キ處斷セラレタル者其併合罪中懲役ニ該ル罪アリタルトキハ  
其罪最重ノモノニ非スト雖モ再犯例ノ適用ニ付テハ懲役ニ處セラレタル  
モノト看做ス

第六十九條 再犯ノ刑ハ其罪ニ付キ定メタル懲役ノ長期ノ二倍以下トス

第七十條 裁判確定後再犯者タルコトヲ發見シタルトキハ前條ノ規定ニ  
從ヒ加重ス可キ刑ヲ定ム

懲役ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除アリタル者ニ付テハ前項ノ規定ヲ適  
用セス

第七十一條 三犯以上ノ者ト雖モ仍ホ再犯ノ例ニ同シ

#### 第十一章 共犯

第七十二條 二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタル者ハ皆正犯トス

第七十三條 人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ハ正犯ニ準ス

教唆者ヲ教唆シタル者亦同シ

第七十四條 正犯ヲ幫助シタル者ハ從犯トス

從犯ヲ教唆シタル者ハ從犯ニ準ス

第七十五條 從犯ノ刑ハ正犯ノ刑ニ照シテ減輕ス

第七十六條 拘留又ハ科料ノミニ處ス可キ罪ノ教唆者及ヒ從犯ハ特別ノ規  
定アルニ非サレハ之ヲ罰セス

第七十七條 犯人ノ身分ニ因リ構成ス可キ罪ヲ共ニ犯シタルトキハ其身分  
ナキ者ト雖モ仍ホ共犯トス

身分ニ因リ特ニ刑ノ輕重アルトキハ其身分ナキ者ニハ通常ノ刑ヲ科ス

#### 第十二章 酌量減輕

第七十八條 犯罪ノ情狀憫諒ス可キモノハ酌量シテ其刑ヲ減輕スルコトヲ  
得

第七十九條 法律上刑ヲ加重又ハ減輕ス可キモノト雖モ仍ホ酌量減輕ヲ爲  
スコトヲ得

#### 第十三章 加減例

第八十條 法律上刑ヲ減輕ス可キ一個又ハ數個ノ原由アルトキハ左ノ例  
ニ依ル

- 一 死刑ヲ減輕ス可キトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役若クハ禁錮トス
- 二 無期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ三年以上ノ有期ノ懲役又  
ハ禁錮トス

三 有期ノ懲役又ハ禁錮ヲ減輕ス可キトキハ其刑期ノ二分ノ一ヲ減ス

四 罰金ヲ減輕ス可キトキハ其金額ノ二分ノ一ヲ減ス

五 拘留ヲ減輕ス可キトキハ其長期ノ二分ノ一ヲ減ス

六 科料ヲ減輕ス可キトキハ其多額ノ二分ノ一ヲ減ス

第八十一條 法律上刑ヲ減輕ス可キ場合ニ於テ各本條ニ二個以上ノ刑名ア  
ルトキハ先ツ適用ス可キ刑ヲ定メ其刑ヲ減輕ス

第八十二條 懲役、禁錮又ハ拘留ヲ減輕スルニ因リ一日ニ滿タサル時間ヲ  
剩ストキハ之ヲ除棄ス罰金又ハ科料ヲ減輕スルニ因リ一錢ニ滿タサル金  
額ヲ剩ストキ亦同シ

第八十三條 酌量減輕ヲ爲ス可キトキ亦第八十條及ヒ前條ノ例ニ依ル

第八十四條 附加刑ハ加重減輕セス

第八十五條 同時ニ刑ヲ加重減輕ス可キトキハ左ノ順序ニ依ル

一 再犯加重

二 法律上ノ減輕

三 併合罪ノ加重

四 酌量減輕

第八十六條 有期ノ懲役又ハ禁錮ハ加重シテ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

#### 第二編 罪

##### 第一章 皇室ニ對スル罪

第八十七條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ危害ヲ  
加ヘ又ハ加ヘントシタル者ハ死刑ニ處ス

第八十八條 天皇、太皇太后、皇太后、皇后、皇太子又ハ皇太孫ニ對シ不敬ノ  
行爲アリタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

皇陵ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者亦同シ

第八十九條 皇族ニ對シ危害ヲ加ヘタル者ハ死刑ニ處シ危害ヲ加ヘントシ  
タル者ハ無期懲役ニ處ス

第九十條 皇族ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者ハ四年以下ノ懲役ニ處ス

第九十一條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

## 第二章 内亂ニ關スル罪

第九十二條 政府ヲ顛覆シ又ハ邦土ヲ僭竊シ其他朝憲ヲ紊亂スルコトヲ目的トシテ暴動ヲ爲シタル者ハ内亂ノ罪ト爲シ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ死刑又ハ無期禁錮ニ處ス

二 謀議ニ參與シ又ハ群衆ノ指揮ヲ爲シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ禁錮ニ處シ其他諸般ノ職務ニ從事シタル者ハ十年以下ノ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シ其他軍ニ暴動ニ干與シタル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但前項第三號ニ記載シタル者ハ此限ニ在ラス

第九十三條 内亂ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十四條 兵器、金穀ヲ資給シ又ハ其他ノ行爲ヲ以テ前二條ノ罪ヲ幫助シタル者ハ七年以下ノ禁錮ニ處ス

第九十五條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第九十六條 第九十三條又ハ第九十四條ノ罪ヲ犯スト雖モ未タ暴動ニ至ラサル前自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

## 第三章 外患ニ關スル罪

第九十七條 外國ニ通謀シテ帝國ニ對シ戰端ヲ開カシメ又ハ敵國ニ與シテ帝國ニ抗敵シタル者ハ死刑ニ處ス

第九十八條 要塞、陣營、軍隊、艦船其他軍用ニ供スル場所又ハ建造物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑ニ處ス

兵器、彈藥其他軍用ニ供スル物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第九十九條 敵國ヲ利スル爲メ要塞、陣營、艦船、兵器、彈藥、汽車、電車、鐵道、電線其他軍用ニ供スル場所又ハ物ヲ損壞シ若クハ使用スルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第一百條 帝國ノ軍用ニ供セサル兵器、彈藥其他直接ニ戰鬪ノ用ニ供ス可キ物ヲ敵國ニ交付シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第一百一條 敵國ノ爲メニ間諜ヲ爲シ又ハ敵國ノ間諜ヲ幫助シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

軍事上ノ機密ヲ敵國ニ漏泄シタル者亦同シ

第一百二條 前五條ニ記載シタル以外ノ方法ヲ以テ敵國ニ軍事上ノ利益ヲ與

ヘ又ハ帝國ノ軍事上ノ利益ヲ害シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第一百三條 前六條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百四條 第九十七條乃至第一百二條ニ記載シタル罪ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百五條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第一百六條 本章ノ規定ハ外國人ニ對シテハ帝國又ハ帝國ノ艦船若クハ占領地ニ在テ犯シタル場合ニ限り之ヲ適用ス

前項ノ規定ハ戰時慣例ニ依リ處分スルコトヲ妨ケス

第一百七條 本章ノ規定ハ戰時同盟國ニ對スル行爲ニ亦之ヲ適用ス

## 第四章 國交ニ關スル罪

第一百八條 帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

帝國ニ滞在スル外國ノ君主又ハ大統領ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第一百九條 帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ加ヘタル者ハ三年以上ノ懲役ニ處ス

帝國ニ派遣セラレタル外國ノ使節ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者ハ一年以上ノ懲役ニ處ス但被害者ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第一百十條 外國ニ對シ侮辱ヲ加フル目的ヲ以テ其國ノ國旗其他ノ國章ヲ損壞、除去又ハ汚穢シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス但外國政府ノ請求ヲ待テ其罪ヲ論ス

第一百十一條 外國ニ對シ私ニ戰鬪ヲ爲ス目的ヲ以テ其豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ五年以下ノ禁錮ニ處ス但自首シタル者ハ其刑ヲ免除ス

第一百十二條 外國交戰ノ際局外中立ニ關スル命令ニ違背シタル者ハ三年以上ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

## 第五章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

第一百十三條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

公務員ヲシテ或處分ヲ爲サシムル爲メ又ハ其職ヲ辭セシムル爲メ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者亦同シ

第一百十四條 公務員ノ職務ヲ執行スルニ當リ其面前ニ於テ侮辱ヲ爲シ又ハ

其面前ニ非スト雖モ其職務ニ對シ文書、圖畫若クハ偶像ヲ公示シ又ハ公然ノ雜劇、歌曲若クハ演說ヲ以テ侮辱シタル者ハ一年以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務所ニ對シ文書、圖畫若クハ偶像ヲ公示シ又ハ公然ノ雜劇、歌曲若クハ演說ヲ以テ侮辱シタル者亦同シ

第一百五條 公務員ノ施シタル封印又ハ差押ノ標示ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ封印又ハ標示ヲ無效トラシメタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 第六章 被拘禁者逃走ノ罪

第十六條 既決、未決ノ囚人逃走シタルトキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第十七條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者拘禁場又ハ械具ヲ損壞シ若クハ暴行、脅迫ヲ爲シ又ハ二人以上通謀シテ逃走シタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第十八條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ奪取シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第十九條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ逃走セシムル目的ヲ以テ器具ヲ給與シ其他逃走ヲ容易ナラシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ目的ヲ以テ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二十條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ヲ逃走セシメタルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二十一條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

#### 第七章 罪人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

第二十二條 罰金以上ノ刑ニ該ル可キ罪ヲ犯シタル者又ハ拘禁中逃走シタル者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條 他人ノ刑事被告事件ニ關スル證憑ヲ湮滅シ又ハ偽造、變造シ若クハ偽造、變造ノ證憑ヲ使用シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條 本章ノ罪ハ被告人又ハ逃走者ノ親族ニシテ被告人又ハ逃走者ノ利益ノ爲メニ犯シタルトキハ之ヲ罰セス

#### 第八章 多衆聚合ノ罪

第二十五條 何等ノ目的ヲ問ハス之ヲ達スル爲メ多衆聚合シ暴行又ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ左ノ區別ニ從テ處斷ス

一 首魁ハ二年以上十年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

二 他人ヲ指揮シ又ハ他人ニ率先シテ勢ヲ助ケタル者ハ一年以上七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

三 附和隨行シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ目的ヲ達スル爲メ多衆聚合シ公務員ノ說諭ヲ受クルト雖モ解散セサルトキハ首魁ハ三年以上ノ懲役又ハ禁錮ニ處シ其他ノ者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十七條 本章ノ罪ヲ犯シ懲役又ハ禁錮ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

#### 第九章 放火及ヒ失火ノ罪

第二十八條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第二十九條 火ヲ放テ現ニ人ノ住居ニ使用セス又ハ人ノ現在セサル建造物、艦船若クハ鑛坑ヲ燒燬シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第三十條 火ヲ放テ前二條ニ記載シタル以外ノ物ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生セシメタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ物自己ノ所有ニ係ルトキハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條 第二百二十九條第二項又ハ前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ第二百二十八條又ハ第二百二十九條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前條第二項ノ罪ヲ犯シ因テ前條第一項ニ記載シタル物ニ延燒シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第三十二條 第二百二十八條及ヒ第二百二十九條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第三十三條 第二百二十八條又ハ第二百二十九條第一項ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第三十四條 第二百二十九條第一項及ヒ第二百三十條第一項ニ記載シタル物

自己ノ所有ニ係ルト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ設定シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ燒燬シタルトキハ他人ノ物ヲ燒燬シタル者ノ例ニ同シ

第三百三十五條 火災ノ際鎮火用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ鎮火ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第三百三十六條 前八條ノ罪ヲ犯シ死刑又ハ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

前八條ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第三百三十七條 火ヲ失シテ第二百二十八條乃至第三百三十四條

ニ記載シタル物ヲ燒燬シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三百三十八條 火藥、汽罐其他激發ス可キ物ヲ破裂セシメテ第二百二十八條

乃至第三百三十四條及ヒ第三百三十四條ニ記載シタル物ヲ損壞シタル者ハ放火、失火ノ例ニ同シ

第三百三十九條 瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出セシメ因テ人ノ生命、身體又ハ財產ニ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

瓦斯、電氣又ハ蒸汽ヲ漏出セシメ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

#### 第十章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第四百四十條 溢水セシメテ現ニ人ノ住居ニ使用シ又ハ人ノ現在スル建造物、汽車、電車若クハ鑛坑ヲ浸害シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑ニ處スルコトヲ得

第四百四十一條 溢水セシメテ前條ニ記載シタル以外ノ物ヲ浸害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

浸害シタル物自己ノ所有ニ係ルトキハ差押ヲ受ケ、物權ヲ設定シ又ハ賃貸シ若クハ保險ニ付シタル場合ニ限り前項ノ例ニ依ル

第四百四十二條 水害ノ際防水用ノ物ヲ隱匿又ハ損壞シ若クハ其他ノ方法ヲ以テ水防ヲ妨害シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第四百四十三條 前三條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

前三條ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

第四百四十四條 過失ニ因リ溢水セシメテ第四百四十條又ハ第四百四十一條ニ記載シタル物ヲ浸害シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百四十五條 堤防ヲ決潰シ、水閘ヲ破壞シ其他水利ノ妨害ト爲ル可キ行

爲又ハ溢水セシム可キ行爲ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

#### 第十一章 往來通信ヲ妨害スル罪

第四百四十六條 陸路、水路又ハ橋梁ヲ損壞又ハ壅塞シテ往來ノ妨害ヲ生セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第四百四十七條 鐵道又ハ其標識ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ汽車又ハ電車ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

燈臺又ハ浮標ヲ損壞シ又ハ其他ノ方法ヲ以テ艦船ノ往來ノ危險ヲ生セシメタル者亦同シ

第四百四十八條 人ノ現在スル汽車又ハ電車ヲ顛覆又ハ破壞シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

人ノ現在スル艦船ヲ覆沒又ハ破壞シタル者亦同シ

前二項ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第四百四十九條 第四百四十七條ノ罪ヲ犯シ因テ汽車又ハ電車ノ顛覆若クハ破壞又ハ艦船ノ覆沒若クハ破壞ヲ致シタル者亦前條ノ例ニ同シ

第四百五十條 第四百四十六條第一項第四百四十七條及ヒ第四百四十八條第一項、第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百五十一條 第四百四十七條又ハ第四百四十八條第一項、第二項ニ掲ケタル行爲過失ニ出テタルトキハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

其業務ニ從事スル者前項ノ罪ヲ犯シタルトキハ三年以上ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二章 住居ヲ侵スル罪

第四百五十二條 故ナク人ノ住居又ハ人ノ看守シタル邸宅、建造物若クハ艦船ニ侵入シ又ハ要求ヲ受ケテ其場所ヨリ退去セサル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四百五十三條 故ナク皇居、禁苑、離宮又ハ行在所ニ侵入シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

皇陵ニ侵入シタル者亦同シ

第四百五十四條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第四百五十五條 本章ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコト

ヲ得

### 第十三章 秘密ヲ侵ス罪

第一百五十六條 故ナク封緘シタル信書ヲ開披、隱匿又ハ毀棄シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百五十七條 醫師、藥劑師、藥種商、產婆、辯護士、辯護人、公證人又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務ニ關シ委託ヲ受ケタルコトニ因リ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

宗教若クハ禱祀ノ職ニ在ル者又ハ此等ノ職ニ在リシ者其業務ニ關シ委託ヲ受ケタルコトニ因リ知得タル人ノ秘密ヲ漏泄シタルトキ亦同シ

第一百五十八條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

### 第十四章 阿片煙ニ關スル罪

第一百五十九條 阿片煙ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第一百六十條 阿片煙ヲ吸食スル器具ヲ輸入、製造又ハ販賣シ若クハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百六十一條 稅關官吏阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ノ輸入ヲ許シタルトキハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第一百六十二條 阿片煙ヲ吸食シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百六十三條 阿片煙又ハ阿片煙吸食ノ器具ヲ所有又ハ所持シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第一百六十四條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百六十五條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

### 第十五章 飲料水ニ關スル罪

第一百六十六條 人ノ飲料ニ供スル淨水ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第一百六十七條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ヲ汚穢シ因テ之ヲ用フルコト能ハサルニ至ラシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百六十八條 人ノ飲料ニ供スル淨水ニ毒物其他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百六十九條 前三條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第一百七十條 水道ニ由リ公衆ニ供給スル飲料ノ淨水又ハ其水源ニ毒物其

他人ノ健康ヲ害ス可キ物ヲ混入シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ七年以上ノ懲役ニ處ス

第一百七十一條 公衆ノ飲料ニ供スル淨水ノ水道ヲ損壞又ハ壅塞シタル者ハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第十六章 通貨偽造ノ罪

第一百七十二條 行使ノ目的ヲ以テ通用ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

內國ニ流通スル外國ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

第一百七十三條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ行使シタル者ハ前條ノ例ニ同シ

行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ輸入シタル者亦同シ

第一百七十四條 偽造、變造ノ貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ行使スル目的ヲ以テ之ヲ收得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第一百七十五條 前三條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第一百七十六條 貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ヲ收得シタル後其偽造又ハ變造ナルコトヲ知テ之ヲ行使シタル者ハ其名價三倍以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但一圓以下ニ降スコトヲ得ス

第一百七十七條 貨幣、紙幣又ハ兌換銀行券ノ偽造又ハ變造ノ用ニ供スル目的ヲ以テ器械又ハ原料ヲ準備シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第一百七十八條 本章ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

### 第十七章 文書偽造ノ罪

第一百七十九條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽若クハ御名ヲ不正ニ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シ又ハ偽造シタル御璽、國璽若クハ御名ヲ使用シテ詔書其他ノ文書ヲ偽造シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

御璽、國璽ヲ押捺シ又ハ御名ヲ署シタル詔書其他ノ文書ヲ變造シタル者亦同シ

第一百八十條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シ又ハ

偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ捺印若クハ署名シタル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者亦同シ

前二項ノ外公務所又ハ公務員ノ作ル可キ文書若クハ繪圖ヲ偽造シ又ハ公務所又ハ公務員ノ作リタル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十一條 公務員其職務ニ關シ行使ノ目的ヲ以テ虛偽ノ文書若クハ繪圖ヲ作り又ハ不正ニ文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者ハ印章、署名ノ有無ヲ區別シ前二條ノ例ニ依ル

第百八十二條 前二條ニ記載シタル文書又ハ繪圖ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ繪圖ヲ偽造若クハ變造シ又ハ虛偽ノ文書若クハ繪圖ヲ作りタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十三條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ繪圖ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ繪圖ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章ヲ捺捺シ若クハ他人ノ署名シタル權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ繪圖ヲ變造シタル者亦同シ

第百八十四條 公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ戸籍簿、登記簿其他權利、義務ニ關スル公正證書ノ原本ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

公務員ニ對シ虛偽ノ申立ヲ爲シ免狀、鑑札又ハ旅券ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十五條 醫師公務所ニ提出ス可キ診斷書、檢案書又ハ死亡證書ニ虛偽ノ記載ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第百八十六條 前三條ニ記載シタル文書又ハ繪圖ヲ行使シタル者ハ其文書又ハ繪圖ヲ偽造若クハ變造シ又ハ不實ノ記載ヲ爲サシメ若クハ虛偽ノ記載ヲ爲シタル者ト同一ノ刑ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百八十七條 本章ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

#### 第十八章 有價證券偽造ノ罪

第百八十八條 行使ノ目的ヲ以テ公債證書、會社ノ株券其他ノ有價證券ヲ偽造又ハ變造シタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ有價證券ニ虛偽ノ記入ヲ爲シタル者亦同シ

第百八十九條 偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ行使シタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

行使ノ目的ヲ以テ偽造、變造ノ有價證券又ハ虛偽ノ記入ヲ爲シタル有價證券ヲ輸入シタル者亦同シ

前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第百九十條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

#### 第十九章 印章偽造ノ罪

第百九十一條 行使ノ目的ヲ以テ御璽、國璽又ハ御名ヲ偽造シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

御璽、國璽又ハ御名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル御璽、國璽又ハ御名ヲ使用シタル者亦同シ

第百九十二條 行使ノ目的ヲ以テ公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所又ハ公務員ノ印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第百九十三條 行使ノ目的ヲ以テ公務所ノ記號ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

公務所ノ記號ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル公務所ノ記號ヲ使用シタル者亦同シ

第百九十四條 行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ偽造シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

他人ノ印章若クハ署名ヲ不正ニ使用シ又ハ偽造シタル印章若クハ署名ヲ使用シタル者亦同シ

第二百九十五條 第二百九十一條第二項、第二百九十二條第二項、第二百九十三條第二項及以前條第二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百九十六條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

#### 第二十章 偽證ノ罪

第二百九十七條 法令ニ依リ宣誓シテ證人ト爲リタル者虛偽ノ陳述ヲ爲シタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百九十八條 前條ノ罪ヲ犯シタル者證言シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二百九十九條 法令ニ依リ宣誓シテ鑑定人又ハ通事ト爲リタル者虛偽ノ鑑定又ハ通譯ヲ爲シタルトキハ前二條ノ例ニ依ル

第二百條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

#### 第二十一章 誣告ノ罪

第二百一條 人ヲシテ刑事事又ハ懲戒ノ處分ヲ受ケシムル目的ヲ以テ虛偽ノ申告ヲ爲シタル者ハ第二百九十七條及ヒ第二百條ノ例ニ依リ處斷ス

第二百二條 前條ノ罪ヲ犯シタル者申告シタル事件ノ裁判確定前又ハ懲戒處分前自白シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

#### 第二十二章 猥褻及ヒ重婚ノ罪

第二百三條 公然猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ科料ニ處ス

第二百四條 猥褻ノ文書、圖畫其他ノ物品ヲ頒布シ又ハ公然陳列若クハ販賣シ又ハ販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二百五條 十二歳以上ノ男女ニ對シ暴行又ハ脅迫ヲ以テ猥褻ノ行爲ヲ爲シ又ハ其精神障礙若クハ抗拒不能ニ乘シテ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者ハ一年以上七年以下ノ懲役ニ處ス

十二歳ニ滿タサル男女ニ對シ猥褻ノ行爲ヲ爲シタル者亦同シ

第二百六條 暴行又ハ脅迫ヲ以テ十二歳以上ノ婦女ヲ姦淫シ又ハ其精神障礙若クハ抗拒不能ニ乘シテ姦淫シタル者ハ強姦ノ罪ト爲シ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

十二歳ニ滿タサル幼女ヲ姦淫シタル者亦同シ

第二百七條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百八條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百九條 第二百五條及ヒ第二百六條ノ罪ヲ犯シ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百十條 營利ノ目的ヲ以テ淫行ノ常習ナキ婦女ヲ勸誘シテ姦淫セシメタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十一條 有夫ノ婦姦通シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相姦シタル者亦同シ

前項ノ罪ハ本夫ノ告訴ヲ待テ之ヲ論ス但本夫姦通ヲ縱容シタルトキハ告訴ノ效ナシ

第二百十二條 配偶者アル者重ネテ婚姻ヲ爲シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス其相婚シタル者亦同シ

第二百十三條 第二百五條、第二百六條及ヒ第二百九條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第二百十條ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

#### 第二十三章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

第二百十四條 偶然ノ輸贏ニ關シ財物ヲ以テ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス但一時ノ娛樂ニ供スル物ヲ賭シタル者ハ此限ニ在ラス

第二百十五條 常習トシテ博戲又ハ賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

博戲場ヲ開張シ又ハ博徒ヲ結合シテ利ヲ圖リタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百十六條 允許ヲ得スシテ富籤ヲ發賣シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

富籤發賣ノ取次ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百十七條 允許ヲ得スシテ發賣シタル富籤ヲ買取シタル者ハ科料ニ處ス

第二百十八條 本章ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得

#### 第二十四章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第二百十九條 神祠、佛堂、墓所其他禮拜所ニ對シ公然不敬ノ行爲アリタ

ル者ハ六月以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス  
説教、禮拜又ハ葬式ヲ妨害シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百二十條 墳墓ヲ發掘シタル者ハ二年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十一條 死體、遺骨、遺髪又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十二條 第二百二十條ノ罪ヲ犯シ死體、遺骨、遺髪又ハ棺内ニ藏置シタル物ヲ損壞、遺棄又ハ領得シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百二十三條 允許ヲ得シテ改葬ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

檢視ヲ經シテ變死者ヲ葬リタル者亦同シ

## 第二十五章 瀆職ノ罪

第二百二十四條 公務員其職權ヲ濫用シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百二十五條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者其職權ヲ濫用シ人ヲ逮捕又ハ監禁シタルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百二十六條 裁判、檢察、警察ノ職務ヲ行ヒ又ハ之ヲ補助スル者刑事被告人、囚人、監置人、留置人又ハ懲治人ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキハ三年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者被拘禁者ニ對シ暴行又ハ陵虐ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二百二十七條 前二條ノ罪ヲ犯シ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百二十八條 法令ニ因リ拘禁セラレタル者ヲ看守又ハ護送スル者水火、風震其他非常ノ事變ニ際シ避難ノ爲メ必要ノ處分ヲ爲スコトヲ怠リ

因テ被拘禁者ヲ死傷ニ致シタルトキハ傷害ノ罪ニ照シテ處斷ス

第二百二十九條 公務員又ハ仲裁人其職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若クハ約束シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ

又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ一年以上十年以下ノ懲役ニ處ス  
前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其價額ヲ追徴ス

第二百三十條 公務員又ハ仲裁人ニ賄賂ヲ贈與、提供又ハ約束シタル者

ハ三年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者事未タ發覺セサル前自首シタルトキハ其刑ヲ免除ス裁判確定前自首シタルトキハ其刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第二百三十一條 公務員又ハ仲裁人情ニ徇ヒ又ハ怨ヲ挾ミ其職務ニ關シ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三十二條 公務員又ハ仲裁人自己ニ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ利益ヲ得セシムル爲メ其職務ニ關スル祕密ヲ漏泄シタルトキハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百三十三條 前四條ノ罪ヲ犯シ懲役ニ處ス可キ者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第二百三十四條 人ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期若クハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百三十五條 自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ヲ殺シタル者ハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百三十六條 前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百三十七條 人ヲ殺ス目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第二百三十八條 人ヲ教唆シテ自殺セシメ又ハ被殺者ノ囑託ヲ受ケ若クハ其承諾ヲ得テ之ヲ殺シタル者ハ七年以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

第二百三十九條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第二百四十條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ハ五年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百四十一條 身體傷害ニ因リ左ノ結果ヲ生シメタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

一 一目又ハ兩目ノ視能ノ喪失

二 一耳又ハ兩耳ノ聽能ノ喪失

三 語能ノ喪失

四 一肢以上ノ使用ノ不能

五 陰陽ノ不能

六 重大ニシテ不治ナル精神、身體ノ疾病又ハ外觀ノ不具

七 流産

第二百四十二條 身體傷害ニ因リ人ヲ死ニ致シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス

第二百四十三條 前三條ノ犯罪アルニ當リ現場ニ於テ勢ヲ助ケタル者ハ自

ラ人ヲ傷害セスト雖モ一年以下ノ懲役又ハ五十圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百四十四條 二人以上ニテ暴行ヲ加ヘ人ヲ傷害シタル場合ニ於テ傷害

ノ輕重ヲ知ルコト能ハス又ハ其傷害ヲ生セシメタル者ヲ知ルコト能ハサルトキハ共同者ニ非スト雖モ共犯ノ例ニ依ル

第二百四十五條 暴行ヲ加ヘタル者人ヲ傷害スルニ至ラサルトキハ拘留又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二十八章 過失傷害ノ罪

第二百四十六條 過失ニ因テ人ヲ傷害シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

第二百四十七條 過失ニ因テ人ヲ死ニ致シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百四十八條 業務上必要ナル注意ヲ怠リ因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ

三年以下ノ禁錮又ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九章 墮胎ノ罪

第二百四十九條 懷胎ノ婦女藥物ヲ用ヒ又ハ其他ノ方法ヲ以テ墮胎シタル

トキハ一年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタル者ハ

二年以下ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十一條 醫師、產婆、藥劑師又ハ藥種商婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得テ墮胎セシメタルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十二條 婦女ノ囑託ヲ受ケ又ハ其承諾ヲ得スシテ墮胎セシメタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百五十三條 前條ノ罪ヲ犯シテ婦女ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十章 老者、幼者及ヒ病者ノ保護ヲ缺ク罪

第二百五十四條 老幼又ハ疾病ノ爲メ扶助ヲ要ス可キ者ヲ遺棄シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十五條 老者、幼者又ハ病者ヲ保護ス可キ責任アル者之ヲ遺棄シ又ハ其生存ニ必要ナル保護ヲ爲ササルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ一年以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十六條 前二條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百五十七條 扶助ヲ要ス可キ老者、幼者又ハ病者ヲ現場ニ發見シタル者故ナク之ヲ扶助セス又ハ當該職員ニ申告セサルトキハ科料ニ處ス

第三十一章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第二百五十八條 人ヲ逮捕又ハ監禁シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己又ハ配偶者ノ直系尊屬ニ對シテ犯シタルトキハ一年以上七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百五十九條 前條ノ罪ヲ犯シテ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第三十二章 脅迫ノ罪

第二百六十條 人ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シタル者亦同シ

第二百六十一條 暴行ヲ用ヒ又ハ生命、身體、自由、名譽若クハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ

貴族院議事速記錄第五號

明治三十五年一月二十五日

刑法改正案 第一讀會

四九

妨害シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス

親族ノ生命、身體、自由、名譽又ハ財産ニ對シ害ヲ加ヘント脅迫シ人ヲシテ義務ナキ事ヲ行ハシメ又ハ行フ可キ權利ヲ妨害シタル者亦同シ  
前二項ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

### 第三十三章 人ヲ拐取スル罪

第二百六十二條 父母其他ノ監督者ノ承諾ナクシテ未成年者ヲ拐取シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

偽計又ハ威力ヲ用ヒ父母其他ノ監督者ノ承諾ヲ得テ拐取シタル者亦同シ

前二項ノ行爲營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ニ出テタルトキハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十三條 營利、猥褻又ハ結婚ノ目的ヲ以テ偽計又ハ威力ヲ用ヒ人ヲ拐取シタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十四條 拐取者ヲ幫助スル目的ヲ以テ被拐取者ヲ藏匿シ又ハ隱避セシメタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

營利又ハ猥褻ノ目的ヲ以テ被拐取者ヲ收受シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百六十五條 前三條ニ記載シタル罪ハ營利ノ目的ニ出テタルモノヲ除ク外告訴ヲ待テ之ヲ論ス但拐取セラレタル者犯人ト婚姻ヲ爲シタルトキハ婚姻ノ無効又ハ取消ノ裁判確定ノ後ニ非サレハ告訴ノ効ナシ

第二百六十六條 國外ニ移送スル目的ヲ以テ第二百六十二條第一項、第二項ノ罪ヲ犯シ又ハ偽計若クハ威力ヲ用ヒ人ヲ拐取シタル者ハ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

國外ニ移送スル目的ヲ以テ人ヲ賣買シ又ハ被拐取者若クハ被賣者ヲ國外ニ移送シタル者亦同シ

第二百六十七條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第二百六十八條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

第三十四章 名譽ニ對スル罪

第二百六十九條 惡事醜行アリトシテ公然之ヲ摘示シ人ノ名譽ヲ毀損シタル者ハ事實ノ有無ヲ問ハス六月以下ノ懲役若クハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二百七十條 惡事醜行ヲ摘示セスト雖モ公然人ヲ侮辱シタル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

第二百七十一條 本章ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

### 第三十五章 賊盜ノ罪

第二百七十二條 他人ノ財物ヲ竊取シタル者ハ竊盜ノ罪ト爲シ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百七十三條 暴行ヲ用ヒ又ハ現ニ被害者又ハ被害者ニ於テ救護ス可キ者ノ生命、身體、自由若クハ財産ニ對シ危害ヲ加ヘント脅迫シテ財物ヲ強取シタル者ハ強盜ノ罪ト爲シ三年以上ノ有期懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百七十四條 強盜ノ目的ヲ以テ其準備ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役ニ處ス但情狀ニ因リ本刑ヲ免除シテ監視ニ付スルコトヲ得

第二百七十五條 竊盜財物ヲ得テ其取還ヲ拒キ又ハ逮捕ヲ免レ若クハ罪跡ヲ湮滅スル爲メ臨時暴行又ハ脅迫ヲ爲シタルトキハ強盜ヲ以テ論ス

第二百七十六條 人ヲ昏醉セシメテ其財物ヲ盜取シタル者ハ強盜ヲ以テ論ス

第二百七十七條 強盜人ヲ傷シタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百七十八條 強盜婦女ヲ強姦シタルトキハ無期又ハ五年以上ノ懲役ニ處ス因テ婦女ヲ死ニ致シタルトキハ死刑又ハ無期懲役ニ處ス

第二百七十九條 第二百七十三條ニ記載シタル以外ノ脅迫ヲ用ヒ他人ノ財物ヲ奪取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百八十條 人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取シタル者ハ十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ方法ヲ以テ不法ニ財産上ノ利益ヲ得又ハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者亦同シ

第二百八十一條 他人ノ爲メ其事務ヲ處理スル者本人ニ損害ヲ加ヘ又ハ自己若クハ第三者ノ利益ヲ圖ル目的ヲ以テ其任務ニ背キタル行爲ヲ爲シ本人ニ財産上ノ損害ヲ加ヘタルトキハ十年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十二條 未成年者ノ知慮淺薄又ハ人ノ精神耗弱ニ乘シテ其財物ヲ交付セシメ又ハ不法ニ財産上ノ利益ヲ得若クハ他人ヲシテ之ヲ得セシメタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十三條 第二百七十二條、第二百七十三條、第二百七十六條又ハ第二百七十九條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ第五百二十二條又ハ第五百十三條ノ罪ヲ犯シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百八十四條 直系血族及ヒ同居ノ親族ノ間ニ於テ第二百七十二條又ハ前五條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除シ其他ノ親族ニ係ルトキハ告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス

親族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス  
第二百八十五條 自己ノ財物ト雖モ質權又ハ留置權ニ因リ他人ノ占有ニ屬シ又ハ公務所ノ命ニ因リ他人ノ看守シタルモノナルトキハ他人ノ財物ヲ以テ論ス

第二百八十六條 本章ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス但第二百七十四條ノ罪ハ此限ニ在ラス  
第二百八十七條 本章ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪ヲ附加スルコトヲ得

本章ノ罪ヲ犯シ有期懲役ニ處ス可キ者ニハ監視ヲ附加スルコトヲ得  
第三十六章 占有物橫領ノ罪  
第二百八十八條 他人ノ爲メ占有スル物ヲ橫領シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス

自己ノ物ト雖モ公務所ヨリ保管ヲ命セラレタル場合ニ於テ之ヲ橫領シタル者亦同シ  
第二百八十九條 業務上他人ノ爲メ占有スル物ヲ橫領シタル者ハ二年以上十年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得  
第二百九十條 遺失物、漂流物其他他人ノ占有ヲ離レタル物ヲ得テ之ヲ橫領シタル者ハ三年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス

第二百九十一條 本章ノ罪ニハ第二百八十四條ノ規定ヲ準用ス  
第三十七章 贓物ニ關スル罪  
第二百九十二條 贓物ヲ收受シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス  
贓物ノ運搬、寄藏、故買又ハ牙保ヲ爲シタル者ハ十年以下ノ懲役及ヒ五百

圓以下ノ罰金ニ處ス  
第二百九十三條 前條ノ罪ヲ犯シタル者ニハ公權剝奪及ヒ監視ヲ附加スルコトヲ得

第二百九十四條 直系血族、同居ノ親族及ヒ此等ノ者ノ配偶者ノ間ニ於テ第二百九十二條ノ罪ヲ犯シタル者ハ其刑ヲ免除ス  
親族ニ非サル共犯ニ付テハ前項ノ例ヲ用ヒス

第三十八章 財物毀棄ノ罪  
第二百九十五條 公務所ノ用ニ供スル文書ヲ毀棄シタル者ハ七年以下ノ懲役ニ處ス

第二百九十六條 權利、義務ニ關スル他人ノ文書ヲ毀棄シタル者ハ三年以下ノ懲役ニ處ス但告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
第二百九十七條 他人ノ建造物又ハ艦船ヲ損壞シタル者ハ五年以下ノ懲役ニ處ス因テ人ヲ死傷ニ致シタル者ハ傷害ノ罪ニ比較シ重キニ從テ處斷ス

第二百九十八條 前三條ニ記載シタル以外ノ物ヲ損壞又ハ傷害シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ二百圓以下ノ罰金若クハ科料ニ處ス但告訴ヲ待テ其罪ヲ論ス  
第二百九十九條 自己ノ物ト雖モ差押ヲ受ケ、物權ヲ設定シ又ハ質貸シ若クハ保險ニ付シタルモノヲ損壞又ハ傷害シタルトキハ前三條ノ例ニ依ル

（國務大臣清浦奎吾君演壇ニ登ル）  
○國務大臣（清浦奎吾君） 刑法ノ改正ノ必要ナル理由ハ、昨年ノ議會ニ於テ改正案ヲ本院ニ提出セラレマシタル際、當時ノ司法大臣ヨリ詳細ニ陳述致シテアリマスカラ、私ハ今茲ニ之ヲ繰返ス煩ヲ省キマス、要スルニ現行法ノ不備ナル點ハ之ヲ補ヒ、不適當ナル條項ハ之ヲ改ムルニ外ナラヌ次第デゴザイマス、昨年提出セラレマシタケレドモ、遂ニ其議了ヲ見ルニ至リマセヌ、デ其後政府ハ更ニ全國ノ裁判所並ニ辯護士協會等ニ諮詢致シマシテ、改正ノ大體及各條項ニ就イテ多少ノ意見モ提出ニナリマシタ、依テ再ビ之ヲ法典調査會ニ付シテ、法典調査會ニ於テハソレ等ノ意見並ニ昨年本院ノ特別委員會デ起リマシタル所ノ意見ヲ參酌致シマシテ、更ニ多少ノ修正ヲ加ヘテ今茲ニ之ヲ提出スルニ至リマシテゴザイマス、本案ハ餘程久シキ間取調ベマシテ、各種ノ意見ヲモ徵シ隨分審議ニ審議ヲ盡サレタル末、茲ニ提出致シマシタル次第デゴザイマスカラ、速ニ審議ノ決議アラントヲ希望致シマス、尙ホ各條項ニ對シマスル御質問等ガゴザイマスレバ、詳細ニ特別委員會ニ於テ辯明致シマ

スルヤウニ仕リマス

○名村泰藏君　チヨット二三箇所伺ッテ置キマス、重罪輕罪ノ名稱ヲ廢セラレマシテ理由、ソレカラ附加刑ニ於テ監視ト云フモノガ又這入ッテ居リマスガ、昨年清浦君ハ此監視ト云フコトニ就イテハ反對ヲ爲サレマシテ、此監視ト云フモノハ有害無益ナモノデアル、是ハ削除スベキモノデアルト云フコトヲ昨年ノ委員會ニ於テ辯ゼラレマシタガ、此度ハ提出案ニ監視ガ載セラレテアリマスガ、司法大臣ハ此監視ニ就イテ御同意サレマシタノデアリマスガ、其意見ヲ承リタウゴザイマス、ソレカラ有期懲役ト云フモノハ昨年ノ提出案ニハ一日以上十五年以下トアリマシタガ、此度ハ一月以上十五年以下ト、斯ウ云フ改正案ニナッテ居リマス、一日以上十五年以下ト云フモノガ此編纂者ノ最モ主義トサレル所デアルニ、此度一月以上十五年以下……一月ト云フコトニセラレマシタ理由ヲ承リタウゴザイマス、罰金ニ就イテモ同様デアリマス、ソレカラ此死刑ニ謀殺故殺ト云フコトガ昨年ノ案デハ區別シテ出テ居リマス、又現行法ニ於テモ謀殺ト故殺ト云フモノハ、チャント區別ヲ立テ、無期徒刑又ハ死刑ト斯ウナッテ居ル先ヅ萬國ノ刑法ニ照シテモ、故殺ト謀殺ト云フモノハ區別ヲ立テ、居リマスルガ、此度ノ刑法改正案ニハ唯「人ヲ殺シタル者ハ」トアッテ謀殺故殺ノ區別ガ立テ、ナイガ、ドウ云フ御主意デ謀殺故殺ト云フコトヲ御廢止ニナリマシタカ、其邊ヲ伺ヒタウゴザイマス

〔國務大臣清浦奎吾君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(清浦奎吾君)　唯今名村君ヨリ四點ノ御質問ガアリマシタガ、順序ニ關ラズ、御答致シマスガ、謀殺故殺ノ區別デアリマスガ、是ハ十分審議ヲ致シタコトデアリマスガ、謀殺必シモ極ク重イモノデアリ、故殺必シモ謀殺ニ比シテ輕イモノデアルト云フ譯デハナイ、此謀殺故殺ノ區別ト云フモノハ實ハ餘程ムヅカシイモノデアル、ソコデ是等ノ區別ハ寧ロ止シタ方ガ宜カラウ、斯ウ云フコトデアッタ、ソレカラ一體此懲役ノ最短期ガ一日ニマデモ下ル或ハ最長期ト最短期ノ間ノ範圍ガ全ク廣過ギルト云フヤウナコトハ、隨分世上ニ議論モアッタコトデアリマスシ、段々各機關ニ諮問致シタ末、ソレ等ノ意見モ大分表レテ居リマス、ソコ等ニ附キマシテハ十分審議ヲ盡シマシテ、短期ノ附ケ得ラルモノハ附ケヤウ、又懲役ノ一日ニ下ルト云フガ如キモ三十日グラ非マデニ切上ゲル方ガ宜シカラウト云フ議論デ斯ウ致シタ次第デアリマス、ソレカラ監視ノコトデアリマスガ、是ハ私ガ一己トシテハ勿論監視ハ止シタ方ガ宜シト云フ意見ヲ持ッテ居ルノデアリマス、併ナガラ

ス云フ法典杯ノコトニナリマスレバ殊ニ此專門ノ知識ヲ集メテソレ……審議ヲ盡スコトデアリマスカラ、清浦奎吾ガ一己ノ意見ヲ以テ之ヲ抑壓スルト云フコトハ、是ハ出來ナイコトデアリマスガ、假令私一己ノ意見ハサウデアリマシテモ、各知識即チ法典調查會杯ノ意見其他閣議ヲモ經マシテ提出ニナル次第デアリマスカラ、無論提出致シマシタ以上ハ、私モ今日ノ如キ改正ノ方法ヲ以テスル所ノ監視ニハ無論同意デアルト云フコトハ、是ハモウ御答申スマデモナイコトデアルト私ハ考ヘマス

〔名村泰藏君「重罪輕罪ノ區別廢止……」ト述フ〕

ソレカラ重罪輕罪ノ區別ハ是ハ昨年本院ノ特別委員會ニ於テモ此區別ハ廢シタ方ガ宜カラウト云フ議論モアッタヤウナ次第デアリマシテ、委員會デハサウ云フコトニナッタト記憶シテ居リマス、是ハ必シモ刑ノ上ニ於テ其區別ヲ致シマスレバ名ノ上ニ方テ此區別ヲ存スルノ必要ハナイト見テ斯ウ云フコトニ修正ヲ致シタノデアリマス

○議長(公曾近衛篤磨君)　他ニ御質問ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス

○村田保君　本案ニ附キマシテ前委員會ニ於キマシテ十五名ノ委員デ議長カラ御選任ニナリマシタガ、本回モドウゾ同様二十五名ノ委員ヲ議長カラ御指名ニナランコトヲ……

○議長(公曾近衛篤磨君)　村田君ノハ十五名ノ委員ニシテ議長指名……

○子爵板倉勝達君　贊成

〔贊成「ト呼フ者アリ」〕

○議長(公曾近衛篤磨君)　村田君ノ御説ニ御異議ガナクバ共通ニ決シマス

〔異議ナシ「ト呼フ者アリ」〕

○議長(公曾近衛篤磨君)　農工銀行法中改正法律案、政府提出、第一讀會

〔仙石書記官朗讀〕

農工銀行法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十五年一月二十二日

内閣總理大臣子爵桂　太郎

大藏大臣　曾禰荒助

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕

農工銀行法中ノ通改正ス

第六條第四號中「申出タルトキ」ノ下ニ「又ハ整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ借用ヲ申出タルトキ」ヲ加フ

○議長(公爵近衛篤磨君) 阪谷君

〔村田保君「政府委員ノ説明ノ前ニチヨット議長ニ申上ゲタイコトガアル、此……」ト述フ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) チヨット御待下サイ、政府委員ニ發言ヲ許シマシタ、許シタアトデアリマス

〔村田保君「實ハ私ハ此次ノ議題ト合セタ方ガ政府委員ノ説明モ却ッテ便利ダラウト存ジマスカラ」一題合セテ問題ニシタラ宜カラウト考ヘタ、其方ガ便利ダラウ……」ト述フ〕

〔贊成「ト呼フ者アリ」〕

○議長(公爵近衛篤磨君) ツレデハ次ノ議題モ一緒ニ致シマス、耕地整理法中改正法律案、政府提出、第一讀會

〔左ノ提出文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕  
耕地整理法中改正法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十五年一月二十二日

内閣總理大臣子爵桂 太郎

內務大臣男爵内海忠勝

農商務大臣 平田東助

司法大臣 清浦奎吾

大藏大臣 曾禰荒助

耕地整理法第六十四條ニ左ノ一項ヲ加フ

整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ農工銀行ヨリ借入レタル金額及其ノ利子ニ付テハ參加土地所有者連帶シテ其ノ責ニ任ス

〔政府委員阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(阪谷芳郎君) 丁度本員カラモ村田サンノ御發議ノ通ノコトヲ請求シヤウト致シマシタ所デアリマス、是ハ耕地整理法ノ改正ニ伴ヒマシテ農工銀行法ノ改正ヲ要シマスル次第デアリマシテ、即チ唯今ノ法律ニ依リマスルト云フト耕地整理ニ加入致シマスモノハ連帶デナケラネバ農工銀行デ金ヲ貸シマセヌ、然ル處ガ、其耕地整理ノ加入者ガ殘ラズ連印ト云フコトハナカ

ナカ多數ノ人デゴザイマシテ餘程手ガ掛ッテ徒ニ時日ヲ要シマスルバカリデ大ニ不便ヲ感ジテ居リマスノデ、其整理委員ガ借リタモノハモウ連帶責任ト爲ルト云フコトニ極メテ其結果農工銀行法ノ方ヲ改正致シタイト云フ斯ウ云フ主意デアッテ、即チ今日後トノ日程ニ載ッテ居ルモノガ主デアリマシテ、ソレニ伴ヒマシテ唯今農工銀行法ノ方ヲ改正ヲ要シマスノデアリマス、是ハ兩案共ニ成ルベク同一委員ニ御付託ニ相成ルヤウニ希望致シテ置キマス

〔村田保君「少々質問ヲ致シタイ、ドウゾ政府委員、演壇マデ御出ヲ願ヒマス、何時モ遠イカラ聽取リ惡イ」ト述フ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 農商務大臣平田東助君

〔國務大臣平田東助君演壇ニ登ル〕

〔村田保君「此今回改正ニナリマセウト云フ唯今政府……」ト述フ〕

○議長(公爵近衛篤磨君) 村田君ニ御注意致シマス、農商務大臣ハ質問ノ答辯ニ出ラレタノデアリマセヌ、説明ノタメニ出ラレマシタ

〔村田保君「サウデゴザイマス」ト述フ〕

○國務大臣(平田東助君) 一言耕地整理法中改正法律案ノコトニ附イテ申シマス、本案提出ノ理由ニ附キマシテ一言清聽ヲ煩シマス、唯今大藏省ノ政府委員カラ申述ヘマシタ如ク、農工銀行法ノ簡條ニ依リマスルト云フト耕地整理ニ要シマスル所ノ費用ヲ農工銀行カラ借出シマスルニハ勢ヒ參加土地所有者ノ總員ガ皆連印スルニアラザレバ借ラレヌト云フコトニナリマシテ、耕地整理ノタメニハ非常ナ不便ヲ感ジテ居ル次第デゴザイマス、耕地整理ノ事業モ段々緒ニ就イテ參リマスルニ附キマシテハ尙ホ此上ニ一層ノ便宜ヲ與ヘマシテ此結果ヲ收メタイト考ヘテ居リマスルノデゴザイマス、故ニ六十四條ニ更ニ一項ヲ加ヘマシテ參加土地所有者ガ悉ク連印致シマセズトモ更ニ別ニ規約ヲ此間ニ設ケサセテ置キマシテ其規約ニ依ッテ整理委員ガ農工銀行トノ間ニ契約致シマシタ所ノ借入金ノ利子及元金ノ償還ニ附イテハ連帶シテ責任ヲ帶ビルト云フコトニ致シテ置キマスレバ總員必ズ連印ヲ致シマセズトモ農工銀行ヨリ資金ヲ借入レルノ便宜ヲ得、又農工銀行ニ於キマシテモ之ガタメニ銀行ノ危險ヲ踏ムト云フコトノ憂モナシ相待ッテ而シテ此目的ヲ達スルコトニナラウト云フ考デ即チ本案ヲ提出致シタノデゴザイマス、此耕地整理ノ費用ハ御承知ノ如ク到底一個人ノ銘々負擔シ得ラル、コトデハナク大分ノ費用ヲ要スルモノデゴザイマスカラ、多クハ勢ヒ農工銀行ノ資本金ヲ借入レナケレバ出來ナイ事柄デゴザイマスルデ、斯ノ如キ便宜法ヲ設ケマスルコトヲ必

要ト致シマスル次第デゴザイマス、尙ホ御質問モゴザイマスレバ之ニ對シテ御答モ致シマスルデゴザイマスルガ、大體右様ノ次第デゴザイマスルデ、御審議ノ上御贊成ヲ希望致シマス

○村田保君 本員ガ質問致シタイノハ此農工銀行カラ耕地整理ノタメニ金ヲ貸スト云フコトハ是ハ三十二年ニモアル、既ニ一昨年此法案ニ第四號ガ加ッタノデス、ソレデ唯今政府委員ノ説明デ見マスルコト云フト土地所有者ガ連帶ヲスルト云フコトニナッタラ、ドウモ不便デ貸サレヌト云フヤウナ話デゴザイマシタガ、此四號ガ一昨年加リマシタキニ實際サウ云フ不都合ヲ生ジタコトガアルノデス、連帶シテミナノ名前ヲ取ルコトガ出來ヌカラシテ貸スコトハ出來ヌト云フ事實ガ起ッタノデス、唯今政府委員ノ説明デ見ルト出來ヌヤウニ見ユル、出來ナイナラバ一昨年追加ニナリマシタ所ノ前ノ方ト云フモノハ無用ニ屬スル、ソレヲ廢シテ置イテサウシテ更ニ今回ノヤウニ整理委員ガ銀行カラ借りルト云フコトニ改メルト云フコトナラバ分リマスルガ矢張政府委員ニ於テハドウモ殘ラズデハ出來ヌトハ言ヒナガラ其方ハ存シテ置カウ、存シテ置テ更ニ其上ニ又整理委員デモ借りルコトガ出來ルヤウニスルコトヲ加ヘヤウト云フコトニナルノデスガ、餘程ハ妙ナコトニナリハシナイカト考ヘル、之ニ附キマシテハ如何デアリマスカ、私ノ見マスル所デハ斯ウ云フ趣意ニ兩方ニナルト、土地所有者ハ金ハ借リタクナイト思フケレドモ整理委員ト云フ者ハ金ヲ借リタイ、斯ウ云フ考ガアレバ土地所有者ガ不同意デモ整理委員ガ金ヲ借りルコトガ出來ルヤウ否ヤト云フ點デゴザイマス、此方デ見マスト「又ハ」ト云フコトニナリマスカラ、耕地整理ヲ施行スル場合ニ於テ參加土地所有者總員ガ連帶責任ヲ以テ借用ヲ申出タルト云フノガ今日ノ法デアリマス、ソレニ「又ハ」以下ヲ加ヘヤウト云フノデアリマス、「又ハ整理委員カ規約ノ定ムル所ニ依リ借用ヲ申出タルトキ」斯ウニツニスル、ソレデスヘバ借りルコトモ此法文デハ出來ル、サウシテ土地所有者ニ連帶ノ責任ヲ負ハセルト云フコトニナルノデスガ、サウ云フ場合ガ生シハシナイカト云フコトヲ伺ヒタイ、ソレト尙ホ「規約ノ定ムル所ニ依リ」ト云フ文面ガアル、所ガ耕地整理法ノ規約ト云フ所ヲ見マス、第二十四條ニ規約ト云フモノハ一カラ七マデアル、「カラ七マデノ間ニ借用スルト云フコトハ」ツモナイ、整理ノタメニ金ヲ借りルトカ何トカ云フコトガ規約ニナケレバドウシテモ斯ウ云フ文面ハ出テ來ナイト思ヒマス、ソレデ整理委員ト云フモノハドウシテモ規約

ニ依ッテ設計書トカ規約ノ外ハヤルコトハ出來ヌト云フ權限ニナッテ居ル、サウシテ見レバ二十四條ノ規約ノ中ニ整理ノタメ銀行カラ借用スルコトヲ得ルトカ云フコトガナケレバ二十四條ニチツトモ借用ノコトガナイニ拘ラズ「規約ノ定ムル所ニ依リ借用ヲ申出タルトキ」ト云フコトハドウ云フ譯デアリマスカ、本員ハ分リ兼ねケレドモ、本員ハ一讀會マデニ考ヘルコトデアルカラ之ニ附イテ尙ホ明瞭ニ御答ヲ願ヒマス

（政府委員和田彦次郎君演壇ニ登ル）

○政府委員（和田彦次郎君） 唯今御質問デゴザイマシタデ御答致シマスデゴザイマス、成程農工銀行法ノ中ノ耕地整理ニ貸付ヲ致シマスル條項ニ附キマシテハ一昨年デゴザイマシタカ改正ニナリマシタ次第デゴザイマス、併シ其改正ニナリマシタ趣意ハ農工銀行ノ一般ノ規則ニ基キマスルノデ、特ニ耕地整理ニ關シテ規約ヲ設ケテ規約ヲ定メタル場合ト雖モ整理委員ノミノ連署デハ貸スコトハ許シテゴザイマセヌ、ソレ故ニ便宜ニ致シマスルガタメニ今回農工銀行法ノ條項モ改メ併テ耕地整理法ノ方モ改メマシテ相待ッテ耕地整理ニ要シマスル費用モ便利ニ致シタイト云フ斯ウ云フ趣意デゴザイマス、サウシテ唯今御尋ノ或ル者ガ費用ヲ借ルコトヲ要シナイト云フノニ整理委員ガ勝手ニ費用ヲ農工銀行ヨリ借入レルコトニナリハシナイカト云フ御尋ノヤウデゴザイマシタガ、ソレハ御承知ノ如ク此耕地整理法ニ於キマシテ總會ニ於テ規約ハ規定致シマスルモノデゴザイマス、又總會ノ議決ヲ經マスル條項ハ耕地整理法ノ第二十條ニゴザイマス、通ニ通常ノ過半数ヲ以テ可決スルト云フガ如キ例デゴザイマセヌ、是ニハ最モ慎重ニ致シマスルコトヲ要シマスルガ故ニ、御承知ノ如ク三通リノ條件ヲ要シテ其孰モ三分ノ二以上ノ同意ヲ經マセヌケレバ此規約ト云フモノハ成立セヌコトニナッテ居ル、第一ハ土地所有者ノ三分ノ二ヲ要シマスルシ第二ニ於キマシテハ……

（村田保君「其事ハ分ッテ居ル」ト述フ）

ソレデ斯様ナル鄭重ナル趣意ニ依ッテ規約ヲ規定致シマシタ以上ハ是ハ整理委員ノ權限……

（村田保君「二十四條ノ規約ト云フコトヲ伺ヒタイ、二十四條ニハ「規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ」トアル」ト述フ）

ソレハ二十四條ノ規約ト云フモノハ是ハ金ヲ要スル場合ヲ指シテ居リマセヌ、是ハ耕地整理ノ他ノ金ヲ要スル場合ヲ除イタキヲ指シテ居リマスノデ、ソレデ整理費ヲ要シマスル場合ハ特ニ今回改正致シマスル所ノ六十四條ニ

加ヘマシテ規約ヲ設ケサセテ之ニ依ッテ運用セシメヤウ、斯ウ云フ趣意ナノ  
デス

〔村田保君〕六十四條ノ規約ト云フモノハ二十四條カラ出タモノデア  
リマセウ「費用及夫役ハ規約ノ定ムル所ニ依リ參加土地所有者之ヲ  
負擔ス」トアル、ソレハ何處カラ出タカト云フト二十四條ニ斯ウ云  
フコトガアル「整理總會ノ招集及會議ノ方法」ソレカラ……ト述  
フ

御答致シマスルガ二十四條ニゴザイマスルノハ總體ノ耕地整理ヲ致シマスル  
ノニ幾許ノ費用ガ入ルト云フコトヲ極メマスルノデゴザイマス、ソレカラ唯  
今ノ改正ノ方ハ其費用ヲ借入レル場合ノ規約ヲ設ケルノデス、左様御承知  
ヲ……

〔村田保君〕マダソレダケデハ少シ分ラヌノデスガ「ト述フ」  
御分リニナリマセバドウカ……

〔村田保君〕一方ニ反對ガアツテモ出來ルノデスカ「ト述フ」

反對ガアツテモ出來ルト云フコトハ多數ノ中デハ或ハ免レヌ場合ガ生ズルカ  
ト思ヒマス、唯今不承知ダト仰セラルル通……

〔村田保君〕規約ノコトハ追ッテ委員會デ申シマス、大變不明瞭デゴザ  
イマスガ……「ト述フ」

ソレデ反對者ノアル場合ノコトハ前ニ申掛ケマシタ處ガ、承知ダト仰ッシヤ  
ルカラ控ヘマシタガ、ソレハ二十條ニゴザイマスル通ニ鄭重ナル多數ノ決ヲ  
以チマシテ規約ト云フモノハ決定致シマスルコトニナリマス、ソレデ或ル場  
合ニ於キマシテ百人ノ中二三ノ者ガ不同意ヲ申シマシテモ是ハ共同致シテ事  
ヲ成スノデアリマスルカラ、勢ヒ之ヲ決シマスルニハ多數ノ意思ニ從ハナケ  
レバナラヌト云フコトガ隨テ出來テ參リマス

○村田保君 併シソレハ第二十條ニ整理施行ヲ發起スルニハ左ノ條件ヲ具備  
スルコトヲ要ストアツテ條件ガ列ネテアリマス、アナタノ仰ッシャルノハ整理  
施行ヲ發起スル、ソレダケノコトデゴザイマスカラ……

○政府委員(和田彦次郎君) 併シ總會ヲ開イテ規約ヲ決定致スノデゴザリマ  
シテ、此二十條ハ重ナル規約、重ナル議決ヲ致ス場合ニ之ヲ準用スルコトニ  
ナツテ居リマス

○村田保君 此上ハ議論ニナリマスカラ止メマシテ……唯時間ヲ費スノミデ  
アリマスカラ……

○議長(公曾近衛篤磨君) 他ニ御質疑ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス、是ハ  
兩案同一委員トシテ議長指名デ御異議ハゴザイマセヌカ  
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公曾近衛篤磨君) 地租條例中改正法律案、衆議院提出、第一讀會  
〔仙石書記官朗讀〕

地租條例中改正法律案  
右本院提出案及送付候也

明治三十五年一月二十一日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公曾近衛篤磨君

〔左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス〕

地租條例中左ノ通改正ス  
第二條ニ左ノ二項ヲ加フ

一府縣又ハ數府縣ノ全部若クハ一部ニ互レル災害ニ因リ收穫皆無ニ歸シ  
タル田畑ノ地租ハ其年分ニ限り之ヲ免除ス

前項ニ依リ免租ノ處分ヲ受ケムトスル者ハ罹災後三十日以内ニ主務官廳  
ニ申出ヘシ此期間内ニ申出サル者ハ免租ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附則

明治三十四年法律第二十七號ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

〔政府委員目賀田種太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(目賀田種太郎君) 衆議院ノ送付ニ係ル此案ノタメニハ……此案  
ニ附イテハ政府ハ同意ヲ致シテ居リマス

○子爵三島彌太郎君 質問ヲ致シタウゴザイマス、此改正ノ條項ニゴザイマ  
スル災害ト云フコトハ其範圍ガ漠然トシテ居ルヤウデゴザイマスガ、解釋ノ  
仕様ニ依ッテハ隨分是ハ汎クナルダラウト思ヒマスガ、ドウ云フモノヲ指シテ  
災害トコ、デハ云フノデゴザイマスガ、一應御説明ヲ願ヒマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 土地ノ收穫ニ對スル災害ニシテ其皆無ニ歸ス  
ルトキ租稅ヲ免ズルト云フコトデゴザイマスルカラ、普通此農作物ノ上ニ起  
リマスル災害ナルモノハ水害、蟲害、風害、旱害ノ如キモノデ、即チ右等ノ  
原因ノタメニ收穫ノ無クナル時デゴザイマス、其範圍ト心得テ居リマス

○村田保君 本員モ少シ御尋致シタイ、成ル程昨年此案ノ衆議院カラ回リマ  
シタ時分ニハ、蟲害風害又ハ旱害ト云フコトガ舉ッテ居ッタ、其時分ニ當議會

デハ蟲害風害旱害ダケハ除イテ水害バカリト云フコトニナッテ居リマス、所ガ今回衆議院カラ災害ト廣ク……災害ト云フ字ニシテ出テ參リマシタガ、唯今政府委員ノ説明デ見マスルト矢張蟲害、風害、旱害、水害バカリノヤウデゴザイマスガ、災害ト云フコトニナリマシタラ其他ノ害モ這入ルコトニナリハシマセヌカ、或ハ霜トカ或ハ蠟毒トカ或ハ戰爭杯ガアルカモ知レヌ、本員ノ見ル所デハ收穫皆無ト云フコトニ目ヲ著ケテ居ルノデヤナイカト思ヒマスガ、土地ノ收穫ガ災害ニ依ッテ皆無ニナッタト云フトキハ免租スルト云フコトニ目ヲ著ケテ居ルト思ヒマスガ、サウデゴザイマスカ

○政府委員(目賀田種太郎君) 左様デゴザイマス

○村田保君 ソンナラ宜ウゴザイマス

○穂積八束君 質問ヲ致シマス、政府委員ガ此案ニハ御同意ノヤウデゴザイマスカラ政府委員ニ御尋致シマスガ、一府縣又ハ數府縣ノ全部若クハ一部ニ互レルト云フノハドウ云フ意味デゴザイマスカ

○政府委員(目賀田種太郎君) 是ハ其災害ノ部局ガ廣ウゴザイマシテ一府縣ノ全部ニ互リマスルカ若クハ其若干部ニ互ルト云フ意味デゴザイマシテ、是マデノ法律ニ於キマシテ斯ノ如キ例モゴザイマスルガ、或ハ一郡若クハ數郡ニ互ルト云フヤウナ全ク此實地ノ被害ノ部局ノ情況ヲ指シタモノデゴザイマス

○穂積八束君 尙ホ一言伺ヒマスガ、此法律案ノ精神ハ災害ニ依ッテ……蓋シ天災ノコトデアリマセウ、災害ニ依ッテ收穫ガ皆無ニ歸シタルトキニハ其土地カラノ收穫ガナクナルカラ是ヨリ稅ヲ取ルコトハ酷デアルト云フコトカラ免稅ニナルト考ヘマスガ、ナゼ其一郡トカ一府縣トカ云フ廣イ全體ガ災害ニ罹ッタトキニハ免租ノ恩典ニ浴スルコトガ出來マスガ、小部分、極端ニ言ヘバ一個人ダケガ數町歩ノ地面ヲ持ッテ居ルト云フトキニ、ソレガ災害ニ罹ッタトキニ免除シナイト云フ、其區別ハドウ云フ精神カラ來タノデゴザイマス

○政府委員(目賀田種太郎君) 御答致シマスガ、一地一筆デゴザイマスルト云フト其及ス害ガ甚ダ部局ガ限ッテゴザイマシテ狹イコトデゴザイマスガ、一郡以上ト云フヤウナ大キナル部局ニナリマスルト云フト總テ其土地ノ被害ヲ救ヒマスル上ニ於キマシテ、例ヘバ蟲害ノ如キ人力ヲ以テ之ヲ救ハウト致シマシテモ其救フベキ總テノ手立ガ悉ク絶無ニナッテ仕舞ヒマス、例ヘバツレニ此豫防ノ手立ヲ盡サウト思ヒマシテモ其物が皆揃ハヌコトニナッテ仕舞ッテ

普通ノ力デハ所詮及ビ難イコトデアリマスカラ、廣イ害ヲ防グト云フ其タメニ免租ヲスル、又一地一筆ノ如キハ成ル程害ハ同ジカモ知レマセヌガ是ハ防ギ能フ場合デアルカラ、寧ろ廣イトキニハ及ビ難イト云フ上カラ參ッテ居ルコト、存ジマス

○子爵谷干城君 チョット質問、私ハ一向突然デ、今コ、デ氣ガ附イタコトデアリマスガ、災害ト云フコトニハ是マデ喧マシイ蠟毒ノコトハ含ンデ居ラヌノデスカ、ソレヲ承リタイ、ソレデ蠟毒ガ……其蠟山ニ毒ガアレバソレヲ蠟山監督廳ガ法律ニ依ッテ差止メルト云フ明ナ明文デアルカラ其災害ノ中ニハソレハ含ンデ居ラヌ、斯ウ云フコトデアリマスガ、又ハ災害ト云フモノヘ矢張含ンデ免租ヲスル、此法律ガ行レタラ免租ヲスルコトニナリマスガ、現ニ今日ハ如何トモナラヌ中ヲドンノ公賣ヲ強制執行デヤッテ居ルヤウニ思ハレル、ソレガ行ハレ、バ矢張災害ノ中ニ蠟毒ノヤウナモノモ這入ルノデアリマスガ、何モ關係ハナイノデスカ

○政府委員(目賀田種太郎君) 御答致シマスガ、蠟毒ト申シマスコトハ即チ所謂枋木縣下等ニ於ケル土地ノ被害ノ場合ヲ御指シニナルコト、存ジマスルガ、是ハ災害ニ因レル被害ト因レヌモノトゴザイマセウシ、又皆無ニ歸スルト皆無ニ歸セザルトノ區別ガゴザイマセウカラ、一概ニ御答ヲ致シ惡イデゴザイマスルガ、蓋シ唯今マデ稱スル蠟毒ノ如キハ此法ノ通過ト共ニ、思フニ被害ノ部ニ這入ルコトデアラウト存ジマス、併ナガラ其時ノ事情ニ因リマスルカラ單ニ蠟毒ナルモノハ災害デアアルカト云フノ御問ニハ唯今御答致シ惡イデアリマス

○子爵谷干城君 チョットモウ一ツ……是マデ此蠟毒ノコトハ私モ、屢トハ言ハヌガ三度程行ッテ視テ居ルガ、素人ガ行ッテ見テモ誠ニ分リ切ッテ居ル、ソレニモ拘ラズ水害ト言ヘバ即チ免租シテアル、水害ト言立テタ所ガ實際……元ハ水カラ來テ居ルガ其毒ハ水ヨリ原因ガ別ニナッテ居ル、ソレデ甚シイ所ニ至ッテハ土地ガ龜ノ甲ノ如クニ破レテ固ッテ居ル、固ッテ居ルカラシテハ連モ植物ガ根ヲサ、ヌ、ソレデサウ云フモノデアアルニ水害ト言立テルナラ許スガ蠟毒ト云フテハ許サヌ、斯ウ云フモノデドンノ執行シテヤッタコトハ私モ覺エテ居ル、其時分ニ前ノ農商務大臣ノ榎本、内務大臣ノ樺山ト云フヤウナ人ニモ是非行ッテ視テ吳レト言ッテ引張り出シテ行ッタコトモアル、今度此法律ガ出來タ上カラハ即チ災害ト云フ所ヲ以テ、水バカリデハナイ、即チ蠟毒ニ依ッテカラニ其地方ヲ汎濫セシメタトキニハ其災害デアアル御積カ、矢張

リ前ノ通水ト云フノデナケリヤ行カヌ御積リカ、ソコヲ伺ヒタイ

○政府委員(目賀田種太郎君) 唯今申上ゲタ通一概ニ御答申惡イト申シタノデ、這入リマスノモアリマセウガ、其時ノ事情ニ因ルノデ、必シモ這入ルト云フコトハ申惡イト申シマシタノデアリマス、是マデノコトハ斯ノ如キ法律ノナイ時デゴザイマスルデ、即チ現行ノ地租條例ニ依レルモノハソレノ處分ニナツタ譯デアリマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 他ニ御質問ガナケレバ委員ノ選定ニ移リマス、議長指名デ御異議ハゴザイマセヌカ

(「異議ナシ」ト呼フ者アリ)

○議長(公爵近衛篤磨君) 次ハ蟲害地租特別處分法案、衆議院提出、第一讀會

(仙石書記官朗讀)

蟲害地租特別處分法案

右本院提出案及送付候也

明治三十五年一月二十一日

衆議院議長片岡健吉

貴族院議長公爵近衛篤磨殿

(左ノ議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノタメ茲ニ掲載ス)

蟲害地租特別處分法

第一條 本法ハ明治三十四年中蟲害ニ因リテ生シタル損害地ニ適用ス

第二條 前條ノ土地ニシテ收穫皆無ナルモノニ限り明治三十四年分地租ヲ免除ス

第三條 前條ニ該當スル土地ノ地租延納年賦金ハ明治三十四年分ニ限り之ヲ免除ス

第四條 本法ニ依リ損害取調中ハ其ノ地租徴收ヲ猶豫ス

第五條 本法ニ依リ地租ヲ免除セラルヘキ土地ニ付テハ既ニ納メタル地租金ハ之ヲ還付ス

第六條 本法ノ施行ニ關シテハ訴願又ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ス

第七條 本法ニ依リ處分ヲ受ケムトスル者ハ本法施行後三十日以内ニ申出

ヘシ若此ノ期限内ニ申出サル者ハ本法ノ處分ヲ受クルコトヲ得ス

附則

本法ニ依リテ特免シタル地租ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

貴族院議事速記録第五號

明治三十五年一月二十五日

蟲害地租特別處分法案 第一讀會

五七

(政府委員目賀田種太郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(目賀田種太郎君) 衆議院ノ送付ノ此案モ政府ハ同意ヲ致シテ居リマス

○田中芳男君 是ハ前ノ案ト大ニ趣ヲ同ジウシタ案デアリマスルガ、併シ此蟲害ト云フコトニ附キマスト是ハ農商務省ノ御所管デアラウト思ヒマスガ、相成ルベクハ農商務省ノ政府委員ノ耳ニ入レテ御答辯ヲ煩ハシタウゴザイマスガ、扱此蟲害ト云フコトハ蟲害驅除豫防法ト云フ法律ガ出マシタ曉ニハ斯様ナルコトハナイヤウニナラウト思ヒマスガ、今日マデアノ法律ハ效ヲ爲サヌカラ斯様ナ結果ニ陷ツタ譯デアリマスカ、其邊ハ農商務省ノ政府委員カラ明ニ御答辯ヲ願ヒタウゴザイマス

(政府委員和田彦次郎君演壇ニ登ル)

○政府委員(和田彦次郎君) 唯今田中サンカラ御質問ガアツタヤウデアリマスガ、能ク聽取レマセナデゴザイマスカラ、モウ一應

○田中芳男君 蟲害ニ附キマシテハ豫防ノ法律ガ既ニ立ッテ居リマスカラ、アレガ厲行ニナツテ居レバ斯様ナ法律ハ無クテモ宜ササウニ思ヒマスガ、政府

ガ御同意ニナツタ所ヲ見マスレバ實際是ガ無クテハナラヌモノトシテ起ツタデアラウト思ヒマス、私杯ガ地方ヲ歩イテ少シ見聞シタコトガアリマスカラ序ニ御參考ニ申シマスガ、蟲害驅除豫防ノ法律ガ厲行ノ出來ヌノガ地方ニ澤山

アルヤウデアリマス、ソレデアノヤウナ習慣ニ於キマシテハ、アノ法律ハ役ニ立たヌ、役ニ立たネバ此法律ガ是非出ネバナラヌト云フヤウニ運ンデ來タ

ヤウニ思ヒマス、故ニ其ヤウナコトニ附イテハ農商務省デハドウ御考ヘニナツテ居ルカト云フコトヲ伺ヒタイ、見聞ノ一二ヲ申セバ蟲害ヲ驅除スルト云フ

コトハ宗旨上デ甚ダ忌ム、何故ナレバ殺生ダトカ云フノデ忌ム、又一方デ蟲

害驅除ヲ重ンズルコトカラ神官僧侶ハソレヲ口實ニシテ御札ヲ賣ルタメニナ

カノ貪ル、ソレガタメニ迷ッテ肝腎ノ法律ガ厲行ガ出來ナイ土地ガ往往ア

ルヤウニ思ヒマス、ソレ等ノ御取締ガナカッタ以上ハ此法律ガ出マシタ所ガ

誠ニ以前ノ法律ヲ打消スヤウナモノニナツテ參ッテ、却ッテ前ノ法律ノ邪魔ヲ

シヤセヌカト思ヒマス、丁度此法律ガ出マスノハ神官僧侶ガ出ルノト同ジヤ

ウナ氣ガシマス、其邊ハドウ御感ジニナツテ居リマスカ

○政府委員(和田彦次郎君) 御答申シマスデゴザイマスガ、御承知ノ通近來

耕作物ニ害蟲ノ生ジマスコトハ頻々起リマシテ、此驅除法豫防法ニ附キマシ

テハ當局ニ於キマシテモ十分ニ攷究ヲ致シ、且ツ規則モゴザイマスコトデ之

ヲ厲行スルコトニ務メテ居リマス、唯今御話ノ如ク或ハ御札ヲ賣ルトカ或ハ祈禱ヲ致シマスとか云フコトハ、或ル地方ニ於テマダ免レマセヌケレドモ、一年トス様ナコトハ薄ラギマシテ、實際ノ豫防驅除ノコトヲ務メルヤウニナッテ居リマス、ソレデ近年ニ至リマシテハ御承知デモゴザイマセウガ、害蟲ノ發シマス時期ノ前ニ於キマシテ此驅除法ヲ最モ務メテ居リマス、又怠ッテ居ルヤウナ地方ガアリマスレバ特ニ技師ヲ派遣シテ年々十餘名ノ技師ヲ一時期ニ於テ各地ニ派遣致シマス、縣廳ヘモ督促致シ或ハ郡役所等ニ就キマシテモ厲行シツ、ゴザイマス、要スルニ害蟲ノ害ハ耕作物ヲシテ悉ク害シテ如何ニ耕作人ガ勵精シテモ此害ヲ防グコトガ能ハヌカト申シマスルト云フト、防ギ得ルモノデアルト云フ解釋ヲ當局ハ執ッテ居リマス、故ニ本法ノ如キハ必シモ必要トハ實ハ認メマセヌデゴザイマス、併ナガラ一二例ノゴザイマスルトコトハ、近年ニ於テ御承知ノ如ク德島縣ノ那賀郡デゴザイマシタカ、害蟲ヲ如何ニ防ガウト思ヒマシテモ、氣候ノ工合ト地性ノ工合ニ依リマシテ、發生時期ニ當リマシテ驅除ヲ致シマスルトキニ、霖雨ガ一週間モ續キマス、ドウシテモ防グコトガ出來ナカツタ天災ガゴザイマスル、サウ云フ場合ヲ指シマスル考デゴザイマス、ソレデ法案中ニモゴザイマスル通ニ收穫皆無ナルトキト云フ意味デゴザイマス、是ハ人力ヲ以テ之ヲ防ギマシテモ、防ギ切レヌト云フ場合ガ稀ニゴザイマスルノデゴザイマス、其時ヲ指シマス積リデアリマス、大體ニ於キマシテ驅除致シマスレバ此害ヲ防ギ得ラレル、斯ウ云フ意思ヲ持ッテ居リマス

○田中芳男君 尙ホ德島ノコトハ存ジテ居リマスガ、他ニモ德島ノヤウナコトガ澤山ゴザイマスカ

○政府委員(和田彦次郎君) 昨年ノ夏ハ所々ニ發生致シマシテゴザイマスルケレドモ、餘程驅除致スコトガ上手ニナリマシテ、各地トモ行届クヤウニナリマシタカラ、先年ノ那賀郡ニゴザイマシタ如キ慘害ハ昨年ノ所デハ何レノ地方ニモ見當リマセヌ

○議長(公爵近衛篤磨君) 他ニ御質問ガナクバ委員ノ選定ニ移リマス

○田中芳男君 前案ト同一ノ委員ニ御付託ニナルコトヲ希望致シマス

○議長(公爵近衛篤磨君) 同一委員デ御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼フ者アリ

○議長(公爵近衛篤磨君) ソレデハ本日ノ議事ハ終リマシタ、唯今御依託ニ

ナリマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報道シマス

(太田書記官朗讀)

## 刑法改正案特別委員

|          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 公爵德川 家達君 | 子爵黑田 和志君 | 子爵丹羽 長保君 |
| 男爵尾崎 三良君 | 男爵岡内 重俊君 | 三好 退藏君   |
| 松岡 康毅君   | 名村 泰藏君   | 村田 保君    |
| 小松原英太郎君  | 奥山 政敬君   | 菊池 武夫君   |
| 高木 豐三君   | 富井 政章君   | 兒玉 淳一郎君  |

## 農工銀行法中改正法律案外一件特別委員

|          |          |          |
|----------|----------|----------|
| 伯爵德川 達孝君 | 子爵京極 高典君 | 子爵牧野 忠篤君 |
| 男爵鍋島 幹君  | 中村 元雄君   | 男爵玉松 眞幸君 |

|         |        |         |
|---------|--------|---------|
| 富田 鐵之助君 | 天春 文衛君 | 角田 林兵衛君 |
|---------|--------|---------|

|         |          |          |
|---------|----------|----------|
| 子爵谷 干城君 | 子爵牧野 貞寧君 | 男爵末松 謙澄君 |
|---------|----------|----------|

|          |        |          |
|----------|--------|----------|
| 田中 芳男君   | 小原 重哉君 | 男爵金子 有卿君 |
| 男爵吉川 重吉君 | 西村 亮吉君 | 野村 恆造君   |

○議長(公爵近衛篤磨君) 次會ノ日程ハ追ッテ報告致シマス、散會

午前十一時四分散會